

(様式第 10)

香大医医第 34 号  
平成 30 年 10 月 3 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 国立大学法人香川大学  
学長 笥 善

香川大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（平成 29 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 29 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒760-8521 香川県高松市幸町1番1号
氏 名	国立大学法人香川大学 学長 笥 善行

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

香川大学医学部附属病院
-------------

3 所在の場所

〒761-0793 香川県木田郡三木町大字池戸1750番地1	電話(087)898-5111
-----------------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
---

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	①	②	③	④
内科と組み合わせた診療科名等				④ 腎臓内科
①呼吸器内科	②消化器内科	③循環器内科		8代謝内科
5神経内科	6血液内科	7内分泌内科		11リウマチ科
9感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科			
診療実績				

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	㊦ ・ 無
外科と組み合わせた診療科名	
①呼吸器外科 5血管外科	②消化器外科 ⑥心臓血管外科
3乳腺外科 7内分泌外科	4心臓外科 ⑧小児外科
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	⑦産婦人科
8産科	9婦人科	⑩眼科	①耳鼻咽喉科	⑫放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	⑬麻酔科	⑭救急科				

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	㊦ ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1小児歯科 2矯正歯科 3口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 脳神経内科	2 腫瘍内科	3 形成外科	4 病理診断科	5 リハビリテーション科	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
26床	0床	0床	0床	587床	613床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	224人	174人	384.5人	看 護 補 助 者	53人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	5人	6人	9.5人	理 学 療 法 士	9人	臨床検査技師	40人
薬 剤 師	41人	1人	42人	作 業 療 法 士	4人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	8人	そ の 他	0人
助 産 師	44人	1人	44.7人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	596人	36人	609.7人	臨 床 工 学 士	13人	医療社会事業従事者	5人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	23人
歯科衛生士	3人	0人	3人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 職 員	67人
管理栄養士	7人	1人	8人	診 療 放 射 線 技 師	33人	そ の 他 の 職 員	18人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	36人	眼 科 専 門 医	14人
外 科 専 門 医	29人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	7人
精 神 科 専 門 医	13人	放 射 線 科 専 門 医	15人
小 児 科 専 門 医	15人	脳 神 経 外 科 専 門 医	14人
皮 膚 科 専 門 医	5人	整 形 外 科 専 門 医	18人
泌 尿 器 科 専 門 医	9人	麻 酔 科 専 門 医	16人
産 婦 人 科 専 門 医	10人	救 急 科 専 門 医	6人
		合 計	207人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 横見瀬 裕保 ) 任命年月日 平成26年4月1日

平成15年10月1日～平成22年3月31日 (6年6か月)	安全管理室長
平成22年4月1日～平成23年3月31日 (1年0か月)	医療安全管理部長
平成25年10月1日～平成26年3月31日 (0年6か月)	医療安全管理部長

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	478.7人	5.4人	484.1人
1日当たり平均外来患者数	877.2人	61.2人	938.4人
1日当たり平均調剤数			802.2剤
必要医師数			104人
必要歯科医師数			4人
必要薬剤師数			17人
必要（准）看護師数			279人

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備	概要		
集中治療室	894.3m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	37床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 [移動式の場合] 台数	271.2m <sup>2</sup> 0台	病床数	19床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 [共用室の場合] 共用する室名	71.7m <sup>2</sup>				
化学検査室	93.3m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	・臨床化学自動分析装置 (東芝メディカルシステムズ TBA-2000FR) ・生化学検査分析装置 (東芝メディカルシステムズ TBA-c16000)		
細菌検査室	161.7m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	・微生物分類同定分析装置 MALDIバイオタイパー (ベックマン・コールター) ・MIC画像処理診断システム (栄研化学 IA20MICmk) ・BDバクテックFX (TOP) (日本ベクトン・ディッキンソン 441385)		
病理検査室	392.0m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	・密閉式自動固定包埋装置 ティッシュテック VIP6 (サクラファインテックジャパン VIP6-J0) ・術中迅速凍結切片作成装置 クリオスタット (サクラファインテックジャパン Polar D) ・自動免疫染色装置 Ventana Benchmark Ultra (ロシュ・ダイアグノスティックス)		
病理解剖室	289.6m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	・ラミナーフロー式 感染防止対策型解剖台 (サクラファインテックジャパン KBH-LD2V)		



研 究 室	79.8m <sup>2</sup>	鉄筋コン クリート	(主な設備) なし	
講 義 室	481.0m <sup>2</sup>		室数	2室
図 書 室	1,672.0m <sup>2</sup>		室数	7室
			収容定員	407人
			蔵書数	137,000冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	79.8%	逆紹介率	67.8%
算出根拠	A: 紹介患者の数		9,959人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		9,168人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		829人
	D: 初診の患者の数		13,504人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
太田 吉夫	香川県立中央病院 長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するため	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
森脇 正	森脇法律事務所 長・弁護士		法律に関する識見を有するため	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
瓜生 幸子	がん患者会ネット ワーク香川 会長		医療を受ける者の代表者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2
真鍋 光輝	香川大学副学長		学長が必要と認め た者	<input checked="" type="radio"/> 有・無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
公表の方法 香川大学医学部附属病院のホームページへの掲載による公表	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	1人
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	0人
LDLアフェレンス療法	1人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法 原発性乳がん(エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る。)	0人
FDGを用いたポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影による不明熱の診断 不明熱(画像検査、血液検査及び尿検査により診断が困難なものに限る。)	2人
水素ガス吸入療法 心肺停止後症候群(院外における心肺停止後に院外又は救急外来において自己心拍が再開し、かつ、心原性心肺停止が推定されるものに限る。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	難治性多発筋炎・皮膚筋炎に対するリツキシマブ療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 多発筋炎・皮膚筋炎の難治例に対する予後改善を目的とする。多発筋炎・皮膚筋炎は多彩な臓器障害を合併し、ステロイドやシクロホスファミドによる免疫抑制療法でも治療抵抗性を示すことがあり、本治療による病態の改善は有用性が高いと考えられる。			
医療技術名	術後腸管に対するバルン内視鏡下ERCP	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 術後腸管に対するERCPは、これまで困難であったがバルン内視鏡によって容易になった。 しかし、バルン内視鏡を施行する施設は限定しており、現状ではハイボリュームセンターのみで行われている。			
医療技術名	超音波内視鏡下瘻孔形成術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 超音波内視鏡下瘻孔形成術は、経消化管的に胆道ドレナージ膵膿瘍ドレナージを行う手技で専用のデバイスがなく手技も確立していると言えず、限定した施設のみで施行している。			
医療技術名	高度脈管浸潤肝癌に対する3DCRT併用肝動注リザーバー治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 脈管浸潤を伴う肝癌は予後が短く、確立された治療法はないのが現状。放射線治療やリザーバー肝動注治療は限定された施設のみで可能な治療である。			
医療技術名	多系統萎縮症における夜間呼吸障害の評価と治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 ポリソムノグラフィーによる夜間呼吸障害の評価とそれに基づく非侵襲的人工呼吸装置の導入を行い、疾患の予後改善に寄与する。			
医療技術名	免疫性神経疾患におけるガンマグロブリン静注療法	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 重症筋無力症および視神経脊髄炎の再発予防を目的にガンマグロブリン静注療法を行っている。			
医療技術名	SOX療法併用Nivolumab療法	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 進行胃癌に対する初回がん薬物療法			
医療技術名	Ipilimumab/Nivolumab併用療法	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 進行胃癌に対するがん薬物療法			
医療技術名	Pembrolizumab併用FP療法 無作為ランダム化臨床試験	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 食道癌に対するがん薬物療法			
医療技術名	FOLFOX療法併用BBI(アバスチンバイオシミラー)療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 大腸癌に対するがん薬物療法			
医療技術名	Nivolumab/Ipilimumab併用療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 下咽がん、頭頸部がんに対するがん薬物療法			

医療技術名	Cetuximab併用FP療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 頭頸部がんに対するがん薬物療法			
医療技術名	皮膚悪性腫瘍の色素法、RI法併用センチネルリンパ節生検	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 色素法とRI法を併用してセンチネルを見つけ、切除する。			
医療技術名	皮膚悪性腫瘍の集団的治療	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 皮膚悪性腫瘍の手術、化学療法、放射線治療、緩和ケアなどによる治療。			
医療技術名	悪性黒色腫の5S-CD値によるフォロー	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 腫瘍マーカーである5-S-CD値を定期的に測定し、経過フォローに役立てる。			
医療技術名	乾癬患者に対する生物学的製剤(抗TNF- $\alpha$ 抗体など)による治療	取扱患者数	31人
当該医療技術の概要 乾癬患者に対し、生物学製剤を用いて治療を行う。			
医療技術名	ビリルビンの精密解析	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 ビリルビンの光異性体、抱合体を高速液体クロマトグラフィーを用いて高精度分析し、新生児高ビリルビン血症の病因、治療効果判定に用いる。			
医療技術名	新生児溶血性黄疸に対するガンマグロブリン療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 高度新生児黄疸の原因となる溶血性黄疸を、非侵襲的に光を利用した黄疸計で早期に発見し、光療法と共にガンマグロブリン療法を行い、交換輸血を回避させる治療。			
医療技術名	光学的非侵襲的脳代謝・循環の測定	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 神経学的後遺症の軽減を目的とした、近赤外分光測定法を用いて、新生児の循環、代謝を評価。			
医療技術名	小児急性リンパ性白血病に対する多剤併用化学療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 小児で最も多い白血病に対し層別化を行い治癒率の向上と晩期合併症の低下を目標とする。			
医療技術名	抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 各種悪性腫瘍における薬剤耐性遺伝子の検索を行い、治療の個別化を行い治療成績の向上を図る。			
医療技術名	FDGを用いたポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影による不明熱の診断	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 他の検査では原因が特定できない小児の白血病においてFDGを用いたポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影を行うことで原因を明らかにする。			
医療技術名	膵癌に対する術前化学放射線治療を組み合わせた集学的治療	取扱患者数	22人
当該医療技術の概要 難治性である膵癌に対して術前化学放射線治療を施工することにより、完全切除率を高め、予後の改善を企図して施工している。			
医療技術名	画像ナビゲーションシステムを用いた肝臓外科手術	取扱患者数	32人
当該医療技術の概要 画像ナビゲーションシステム(ビンセント)を用いて、術前に解剖や肝容量などを詳細に検討することにより安全な肝臓外科手術を施工している。			

医療技術名	胃GISTに対する腹腔鏡・内視鏡合同手術(LECS)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 腹腔鏡・内視鏡合同手術(LECS)により、低侵襲に胃GISTを切除している。			
医療技術名	気管・気管支形成を伴う肺癌手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 肺・気管の悪性腫瘍に対して気道再建を伴う手術を行う。			
医療技術名	肺癌患者に対する遺伝子解析に基づいた化学療法	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 肺癌患者に対して、遺伝子解析に基づいた化学療法を行う。			
医療技術名	局所進行癌に対する集学的治療	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 局所進行肺癌に対して放射線化学療法後に肺癌手術を行う。			
医療技術名	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 両側鼠径ヘルニア手術を鏡視下に行っている。			
医療技術名	腹腔鏡下噴門形成術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 乳幼児に対して腹腔鏡下に噴門形成術を行った。			
医療技術名	先天性横隔膜ヘルニア根治術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 重症疾患である本疾患に対して開腹にて根治術を行った。			
医療技術名	低出生体重児多発腸閉鎖症手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 短腸症候群の低出生体重児の技術的に難しい手術を施行した。			
医療技術名	先天性食道閉鎖症手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 胸腔外アプローチにて根治術を施行。			
医療技術名	ヒルシュスプルング病根治術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 腹腔鏡下にヒルシュスプルング病根治術を行った。			
医療技術名	胆道拡張症手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 開腹にて根治術を行った。			
医療技術名	右下葉切除術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 幼児のCCAM症例について開胸下に根治術を行った。			

医療技術名	下肢難治性骨折(偽関節)に対する骨・血管再生療法	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 顆粒球コロニー刺激因子製剤(フィルグラスチム)を皮下注射後、アフレスシスで取り出した単核球から磁気細胞分離装置を使用してCD34陽性細胞のみを取り出す。偽関節手術は通常と同様の方法で行い、これに加えて、CD34陽性細胞とアテロコラーゲンを混ぜ、偽関節部に移植することで骨癒合を促進する。			
医療技術名	顔面神経麻痺形成手術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 顔面神経麻痺に対するネットワーク型神経移植			
医療技術名	遊離皮弁術、遊離複合組織移植術	取扱患者数	23人
当該医療技術の概要 顕微鏡下血管吻合を用いた組織移植			
医療技術名	リンパ管静脈吻合	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 スーパーマイクロサージャリー技術を用いたリンパ管静脈吻合によるリンパ浮腫治療			
医療技術名	漏斗胸手術	取扱患者数	23人
当該医療技術の概要 3Dシミュレーションにより胸郭変形を予測した漏斗胸手術			
医療技術名	ロボット支援下腎部分切除術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 ロボット(ダ・ヴィンチ)を用いて、複雑な腎腫瘍に対し、腎を全摘することなく部分切除する。			
医療技術名	ロボット支援下膀胱全摘除術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 ロボット(ダ・ヴィンチ)を用いて、膀胱癌に対し、膀胱全摘除術を行う。さらに、体腔内で代用膀胱作製などの尿路変向術も行う。			
医療技術名	脳神経外科手術に対する術中MRI	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 手術室と同室に備え付けられたMRI装置により、患者を別室に移動することなく手術中にMRIを撮影することが出来る。術中MRI撮影により、主に脳腫瘍の摘出術において、手術の安全性ならびに確実性の向上に寄与する。			
医療技術名	抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 悪性脳腫瘍患者に対する抗悪性腫瘍剤耐性遺伝子を検索することで、個々の患者での化学療法の有効性やリスクの軽減を目的とする。			
医療技術名	重症脳卒中および重症頭部外傷に対する脳低温・平温療法	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 重症脳卒中および重症頭部外傷に対して、脳保護を目的とした脳低温・平温療法である。			
医療技術名	脳神経外科手術における神経モニタリング	取扱患者数	94人
当該医療技術の概要 手術による脳神経の損傷を避けるため、大脳皮質を脳表ないし経頭蓋的に電気刺激、または脳神経を直接電気刺激する。電気刺激に対する神経の反応を確認しながら手術を行うことで、神経損傷を未然に防ぐ。手術の安全性ならびに確実性の向上に寄与する。			
医療技術名	脳神経外科手術に対する術中ナビゲーション	取扱患者数	81人
当該医療技術の概要 術中ナビゲーション装置により、腫瘍や病変の局在部位を手術中に確認する。また上記術中MRIの技術と組み合わせることで、腫瘍摘出術での残存腫瘍の部位をリアルタイムに把握できる。手術の安全性・確実性だけでなく、腫瘍の摘出率の向上にも極めて有用である。			



医療技術名	5-アミノレブリン酸を用いた脳腫瘍手術	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要 悪性脳腫瘍の手術において、病変は周囲脳との境界が不明瞭であり、目視で摘出範囲を決定するのが困難なことが多い。術前に投与されたアミノレブリン酸により腫瘍が蛍光標識される。腫瘍摘出の確実性を増すことができる。			
医療技術名	インドシアニングリーンを用いた脳血管障害手術	取扱患者数	23人
当該医療技術の概要 脳血管障害の手術において、術中にインドシアニングリーンを静脈投与し偏光顕微鏡で観察することで、脳血管の血行動態を術中に把握することができる。脳動脈瘤クリッピング術や血管吻合術において、確実な手術を行うことができる。			
医療技術名	脳動脈瘤に対するステントを併用したコイル塞栓術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 脳動脈瘤の中で、サイズの大きなものや頸部が広いものはコイルのみでの塞栓術は困難であり、ステントを併用することでより確実なコイル塞栓術を行うことができる。			
医療技術名	脳動脈奇形に対するOnyx embolic systemを用いた塞栓術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 脳動脈奇形は治療が困難な疾患である。液体塞栓物質であるOnyx embolic systemを用いた塞栓術を行うことで、脳動脈奇形を消失させたり、塞栓術後の摘出術や定位放射線治療の成績を向上させたりすることができる。			
医療技術名	脳梗塞急性期における機械的血栓回収療法	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要 脳梗塞急性期におけるrt-PAによる血栓溶解療法に反応しない症例に対して、様々な血栓回収器材を用いて閉塞した血管を物理的に再開通させることができる。			
医療技術名	神経内視鏡下経鼻的下垂体手術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 下垂体腺腫等のトルコ鞍部の脳腫瘍手術において、従来の顕微鏡を用いた手術にかわり、経鼻的に挿入された神経内視鏡を用いた手術である。神経内視鏡の使用により、従来の手術よりも遥かに良好な視野が得られ、侵襲の少ない手術が可能である。			
医療技術名	Pipeline Flex フローダイバーターシステムを用いた大型・巨大脳動脈瘤治療	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 メッシュ状の筒型デバイスを脳動脈瘤のある動脈に留置し、母血管の血流を温存しつつ脳動脈瘤内部の血栓形成を促進する。遮断された脳動脈瘤入口部で内膜新生を誘引し、脳動脈瘤の破裂リスクを低減させる。			
医療技術名	経口腔的内視鏡下咽喉頭腫瘍切除術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 特殊な開口器、喉頭鏡を用いて内視鏡下に切除する。			
医療技術名	内視鏡補助下頭蓋底腫瘍摘出術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 外切開を加えることなく、経鼻的・経口的に側頭下窩、頭蓋底の腫瘍を切除する。			
医療技術名	肝臓に対する肝動脈塞栓療法	取扱患者数	109人
当該医療技術の概要 肝臓に対してカテーテルを利用して肝動脈塞栓手術を行う。			
医療技術名	肝・骨盤部悪性腫瘍に対するリザーバー設置術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 肝・骨盤部悪性腫瘍に対するリザーバー設置術			
医療技術名	高速ヘリカルCTによる3次元画像	取扱患者数	2318人
当該医療技術の概要 高速ヘリカルCTによる3次元画像			

医療技術名	強度変調放射線治療(IMRT)	取扱患者数	86人
当該医療技術の概要 多分割絞り(マルチリーフコリメータ)などを用いて、空間的又は時間的な放射線強度の調整を同一部位に対する複数方向からの照射について行うことで、三次元での線量分布を最適なものとする照射療法。3方向以上の照射角度から各門につき3種以上の線束強度変化をもつビームによる治療計画を逆方向治療計画法(インバースプラン)にて立案したもの。			
医療技術名	画像誘導放射線治療(IGRT)	取扱患者数	120人
当該医療技術の概要 毎回の照射時に治療計画時と照射時の照射中心位置の三次元的な空間的再現性が5ミリメートル以内であることを照射室内で画像的に確認・記録して照射する治療。			
医療技術名	密封小線源治療 組織内照射 前立腺癌に対する永久挿入療法	取扱患者数	23人
当該医療技術の概要 前立腺組織内にヨウ素 125 粒子を挿入する療法。			
医療技術名	免疫抗体によるHER2染色	取扱患者数	122人
当該医療技術の概要 転移性乳癌や乳癌術後及び進行・再発胃癌の補助化学療法。			
医療技術名	EBER in situ hybridization検査	取扱患者数	32人
当該医療技術の概要 バーキットリンパ腫・上咽頭癌・ホジキンリンパ腫・T/NKリンパ腫移植後リンパ増殖異常の感染証明。			
医療技術名	免疫抗体によるALK染色	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要 非扁平上皮癌の治療に有効な分子標的治療薬適用のための診断。			
医療技術名	超音波内視鏡による細胞診・組織診	取扱患者数	101人
当該医療技術の概要 超音波内視鏡によるon site cytologyとon site biopsyの診断。			
医療技術名	ヒルシュスプリング病のアセチルコリン染色	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 ヒルシュスプリング病の診断。			
医療技術名	腎臓並びに移植腎の特殊染色(アルポート症候群を含む)	取扱患者数	111人
当該医療技術の概要 腎生検・移植腎の腎炎・拒絶反応の診断。			
医療技術名	末期的心臓病に対する外科手術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 人工心臓・心臓移植の適応を考慮する末期的心臓病患者に対する僧帽弁手術・左室形成術			
医療技術名	末期的心臓病に対する外科手術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 人工心臓・心臓移植の適応を考慮する末期的心臓病患者に対する僧帽弁手術・左室形成術			
医療技術名	重症脳障害に対する体温管理療法	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 心肺停止後症候群(PCAS)、くも膜下出血(SAH)等の重症脳障害に対し、体温管理療法を行っている。			

医療技術名	PCASに対する体外循環式心肺蘇生法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 PCASに対し体外循環式心肺蘇生法を行う。			
医療技術名	口腔がんにおける再建術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 口腔がん診療において欠損した組織を補う再建術を行うことで術後の機能障害をできるだけ軽減する。			
医療技術名	歯の欠損に対する口腔インプラント治療	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 歯を欠損した場合義歯やブリッジでの補強が必要であったが、インプラントを行うことにより天然歯と同様に咬合することが可能になる。			
医療技術名	内視鏡下の唾石摘出術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 大唾液腺に生じた唾石は、皮膚切開し唾液腺摘出が必要となったり口腔内を大きく切開し唾石を摘出することが必要であるが内視鏡を用いることで低侵襲となり小さな切除で唾石を摘出することが可能になる。			
医療技術名	内視鏡下歯根端切除術	取扱患者数	49人
当該医療技術の概要 根光病巣は外科的に摘出され歯根端切除、逆根管充填術が行われるが臼歯部では視野の問題で対応がされず、摘出せざるを得なかった。しかし内視鏡を使用することで臼歯部についても保存し、以後の手術が可能となる。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	0	56	ベーチェット病	49
2	筋萎縮性側索硬化症	26	57	特発性拡張型心筋症	30
3	脊髄性筋萎縮症	0	58	肥大型心筋症	6
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	14	60	再生不良性貧血	13
6	パーキンソン病	192	61	自己免疫性溶血性貧血	1
7	大脳皮質基底核変性症	4	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
8	ハンチントン病	1	63	特発性血小板減少性紫斑病	21
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トウス病	0	65	原発性免疫不全症候群	2
11	重症筋無力症	89	66	IgA 腎症	32
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	19
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	81	68	黄色靱帯骨化症	13
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	34	69	後縦靱帯骨化症	46
15	封入体筋炎	0	70	広範脊柱管狭窄症	1
16	クロウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	15
17	多系統萎縮症	31	72	下垂体性ADH分泌異常症	6
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	35	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	5	74	下垂体性PRL分泌亢進症	9
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	13
21	ミトコンドリア病	4	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	36	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	30
23	プリオン病	1	78	下垂体前葉機能低下症	66
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	5	83	アジソン病	1
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	48
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	6
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	11
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	8
34	神経線維腫症	19	89	リンパ脈管筋腫症	1
35	天疱瘡	13	90	網膜色素変性症	22
36	表皮水疱症	3	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	7	92	特発性門脈圧亢進症	1
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	74
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	1
40	高安動脈炎	23	95	自己免疫性肝炎	3
41	巨細胞性動脈炎	6	96	クローン病	39
42	結節性多発動脈炎	17	97	潰瘍性大腸炎	66
43	顕微鏡的多発血管炎	25	98	好酸球性消化管疾患	2
44	多発血管炎性肉芽腫症	15	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	8	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	15	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャール病	6	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	144	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	94	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	56	106	クリオピリン関連周期熱症候群	1
52	混合性結合組織病	29	107	全身型若年性特発性関節炎	1
53	シェーグレン症候群	31	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	3	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	1	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	1	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	5
113	筋ジストロフィー	19	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	1	167	マルファン症候群	1
118	脊髄腫瘍	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	1	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	1
122	脳表ヘモジリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	3	177	有馬症候群	0
128	ピッカー・スタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウイリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マガニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	2	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	0	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	1	263	脳髄黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	1	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	50	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	271	強直性脊椎炎	8
224	紫斑病性腎炎	8	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	1	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	0	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	1	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	1	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	1
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	1
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	1
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	1
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	8
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	1	302	レーベル遺伝性視神経症	1
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	35

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	$\beta$ -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)／L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・病棟薬剤業務実施加算2
・歯科外来診療環境体制加算2	・データ提出加算2
・歯科診療特別対応連携加算	・入退院支援加算1、3
・特定機能病院入院基本料(一般 7対1)	・認知症ケア加算2
・特定機能病院入院基本料(精神 13対1)	・精神疾患診療体制加算
・超急性期脳卒中加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・診療録管理体制加算2	・救命救急入院料1
・医師事務作業補助体制加算1	・救命救急入院料4
・急性期看護補助体制加算	・特定集中治療室管理料2
・看護職員夜間配置加算	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・看護補助加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・療養環境加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・重症者等療養環境特別加算	・小児入院医療管理料2
・無菌治療室管理加算1	・
・無菌治療室管理加算2	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・総合評価加算	・
・後発医薬品使用体制加算2	・
・病棟薬剤業務実施加算1	・



(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・遺伝学的検査
・ウイルス疾患指導料	・有床義歯咀嚼機能検査1のイ
・糖尿病合併症管理料	・有床義歯咀嚼機能検査1のロ及び咀嚼能力検査
・がん性疼痛緩和指導管理料	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・がん患者指導管理料イ	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・がん患者指導管理料ロ	・検体検査管理加算(IV)
・がん患者指導管理料ハ	・遺伝カウンセリング加算
・外来緩和ケア管理料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・胎児心エコー法
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・糖尿病透析予防指導管理料	・ヘッドアップティルト試験
・乳腺炎重症化予防・ケア指導料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・外来放射線照射診療料	・神経学的検査
・ニコチン依存症管理料	・補聴器適合検査
・療養・就労両立支援指導料の注2に掲げる相談体制充実加算	・ロービジョン検査判断料
・がん治療連携計画策定料	・小児食物アレルギー負荷検査
・排尿自立指導料	・内服・点滴誘発試験
・肝炎インターフェロン治療計画料	・画像診断管理加算2
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・ポジトロン断層撮影
・薬剤管理指導料	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	・CT撮影及びMRI撮影
・医療機器安全管理料1	・冠動脈CT撮影加算
・医療機器安全管理料2	・外傷全身CT加算
・医療機器安全管理料(歯科)	・心臓MRI撮影加算
・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護指導料	・乳房MRI撮影加算
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・小児鎮静下MRI撮影加算
・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算

・外来化学療法加算1	・脳腫瘍覚醒下マッピング加算
・無菌製剤処理料	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・がん患者リハビリテーション料	・網膜再建術
・歯科口腔リハビリテーション料2	・人工中耳植込術
・認知療法・認知行動療法1	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・医療保護入院等診療料	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・口腔粘膜処置	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・レーザー機器加算	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・硬膜外自家血注入	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・人工腎臓	・胸腔鏡下弁形成術
・導入期加算2及び腎代替療法実績加算	・胸腔鏡下弁置換術
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・経皮的中隔心筋焼灼術
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・磁気による膀胱等刺激法	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・手術用顕微鏡加算	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・CAD/CAM冠	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
・有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算1及び2	・両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器交換術
・センチネルリンパ節加算	・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開副腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術及び腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)

・腹腔鏡下肝切除術	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・生体部分肝移植術	・体外照射呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	・定位放射線治療
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・同種死体膵移植術、同種死体膵腎移植術	・病理診断管理加算2
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・同種死体腎移植術	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・生体腎移植術	・
・膀胱水圧拡張術	・
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・
・人工尿道括約筋植込・置換術	・
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・
・胎児胸腔・羊水腔シャント術	・
・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術(胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。))	・
・輸血管理料Ⅱ	・
・貯血式自己血輸血管理体制加算	・
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・
・歯周組織再生誘導手術	・
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・
・歯根端切除手術の注3	・
・麻酔管理料(Ⅰ)	・
・麻酔管理料(Ⅱ)	・
・放射線治療専任加算	・
・外来放射線治療加算	・
・高エネルギー放射線治療	・
・1回線量増加加算	・
・強度変調放射線治療(IMRT)	・



## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
麻酔科標榜資格を保持している医師の実態把握に関する研究	白神豪太郎	麻酔学	5,000,000	補委 厚生労働省
死亡・死因に関する情報の収集とその流れおよびデータ分析に関する国際比較 適切な原死因記載のための教育コンテンツの開発	木下 博之	法医学	1,500,000	補委 厚生労働省
スモンに関する調査研究	峠 哲男	健康科学	400,000	補委 厚生労働省
難治性血管炎に関する調査研究	土橋 浩章	血液・免疫・呼吸器内科学	800,000	補委 厚生労働省
化学物質の有害性評価の迅速化・高度化・標準化に関する研究	横平 政直	腫瘍病理学	13,700,000	補委 厚生労働省
抗毒素の品質管理及び抗毒素を使用した治療法に関する研究(ヤマカガシ及びシアコケグモ抗毒素を用いた臨床研究)	一二三 亨	救命救急センター	3,230,770	補委 日本医療研究開発機構
医療機器の不具合用語集の維持管理及び利活用のあり方に関する研究	横井 英人	医療情報部	2,923,077	補委 日本医療研究開発機構
研究開発課題: MID-NETデータの特性解析及びデータ抽出条件・解析手法等に関する研究	横井 英人	医療情報部	3,000,000	補委 日本医療研究開発機構
革新的抗がんウイルス療法の実用化臨床研究(分担研究開発課題名等: 難治がんに対するウイルス療法の開発)	門脇 則光	血液・免疫・呼吸器内科学	1,400,000	補委 日本医療研究開発機構
アンパウンドビリルビン測定に関する基礎的検討・ガイドラインの作成	日下隆	小児科学	728,000	補委 日本医療研究開発機構
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確率のための研究	山本 哲司	整形外科	199,680	補委 日本医療研究開発機構
ANCA関連血管炎の新規治療薬開発を目指す「戦略的シーズ探索と臨床的エビデンス構築研究」(分担研究開発課題名等: MPA, GPAを対象とするトリスマップの医師主導治験準備)	土橋 浩章	血液・免疫・呼吸器内科学	400,000	補委 日本医療研究開発機構
医療品開発に利用できる患者領域別データ(分担研究開発課題名: 疾患領域別データ標準の国内での利用可能性についての研究~各疾患領域の医療実態に関する国内外の発見のデータ集積への反映に関する取り組み~)	横井 英人	医療情報部	520,000	補委 日本医療研究開発機構
既存の診療情報と一体的に運用可能な症例登録システムの構築とアウトカム指標等の分析・利活用に関する研究	鈴木 康之	消化器外科学	150,000	補委 日本医療研究開発機構
既存の診療情報と一体的に運用可能な症例登録システムの構築とアウトカム指標等の分析・利活用に関する研究	横井 英人	医療情報部	150,000	補委 日本医療研究開発機構
慢性腎臓病(CKD)進行例の実態把握と透析導入回避のための有効な指針の作成に関する研究(分担研究開発課題名: コホート研究患者登録および経過観察)	祖父江 理	腎臓内科	199,999	補委 日本医療研究開発機構
医療機器の不具合情報の効率的解析手法に関する研究	横井 英人	医療情報部	350,000	補委 日本医療研究開発機構
軟性内視鏡・デバイス・デリバリー・ステーション・システム(Device Deliberation Station System: DDSS)	森 宏仁	消化器内科	2,000,000	補委 日本医療研究開発機構
内視鏡手術トレーニング装置搭載用カウンタートラクション評価技術	藤原 理朗	消化器外科	2,000,000	補委 日本医療研究開発機構
インシュリン部筆促進作用を持つ新規合成低分子COA-CI(コアクロール)	塚本 郁子	薬物生体情報学	2,000,000	補委 日本医療研究開発機構
消化管間葉系腫瘍(GIST)の診断用血清miRNAキットの開発	藤田 浩二	消化器内科	1,363,636	補委 日本医療研究開発機構
漏斗胸患者に対して、最適な手術計画を「オーダーメイド」するシステムの開発	永竿 智久	形成外科学	1,430,000	補委 文部科学省
新規空調設備を有する手術室建造の有用性に関する研究	白杵 尚志	手術部	1,300,000	補委 文部科学省
消化管粘膜下腫瘍におけるmicroRNA解析から導かれる病態解明と予後因子予測	小原 英幹	消化器・神経内科学	390,000	補委 文部科学省
HDL代謝賦活による膵β細胞の脂肪毒性解除のストラテジー	村尾 孝児	内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学	1,040,000	補委 文部科学省
造血器腫瘍に対するHSV-1ウイルス療法の開発	門脇 則光	血液・免疫・呼吸器内科学	1,820,000	補委 文部科学省
誘導γδT細胞を用いたがん化学療法腸管免疫療法の開発	今滝 修	血液・免疫・呼吸器内科学	650,000	補委 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
アトピー性皮膚炎における自然免疫低下のメカニズムの解明と治療	中井 浩三	皮膚科学	910,000	(補委) 文部科学省
生体膜マイクロドメインと膜受容体の可視化による揮発性麻酔薬の作用機序の解明	小野 純一郎	麻酔学	1,040,000	(補委) 文部科学省
鎮静・鎮痛度指標と制御に関する検討	白神 豪太郎	麻酔学	650,000	(補委) 文部科学省
非侵襲的バイオマーカーによる腎移植後再発性腎炎の発症・活動性予測法の確立	祖父江 理	循環器・腎臓・脳卒中内科	1,430,000	(補委) 文部科学省
網膜中心静脈閉塞症における広角眼底撮影を用いた網膜虚血状態の定量的評価法の開発	辻川 明孝	眼科学	1,560,000	(補委) 文部科学省
生体内ダイレクト・リプログラミングを利用した血管付加脂肪組織の再生に関する研究	浜本 有祐	形成外科・美容外科	1,170,000	(補委) 文部科学省
apneic oxygenation理論を用いた気道手術の新しい呼吸管理法の開発	呉 哲彦	呼吸器外科	1,560,000	(補委) 文部科学省
精神疾患を合併する母から出生した児における乳児期早期の脳機能評価	加藤 育子	小児科	650,000	(補委) 文部科学省
放射線肺臓炎の新たな予測方法の開発	高橋 重雄	放射線治療科	910,000	(補委) 文部科学省
ストレス受容性を制御するmicroRNAは脳腫瘍の治療感受性を向上させられるか？	小川 大輔	脳神経外科	1,170,000	(補委) 文部科学省
抗体薬物複合体による不安定プラークの画像診断・治療の一体化開発	南野 哲男	循環器・腎臓・脳卒中内科	4,810,000	(補委) 文部科学省
加齢、メタボリック症候群及び発癌におけるmiR-301aの機能解析	藤田 浩二	消化器内科	1,040,000	(補委) 文部科学省
肝細胞癌におけるGal-9のエクソソームを標的とした治療戦略のための基礎的研究	正木 勉	消化器・神経内科学	1,430,000	(補委) 文部科学省
パーキンソン病の睡眠障害が夜間高血圧に及ぼす影響	出口 一志	消化器・神経内科学	260,000	(補委) 文部科学省
転写因子PREBTランスジェニックマウス解析結果を用いた生活習慣病改善戦略	井町 仁美	内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学	1,170,000	(補委) 文部科学省
ヒトの生後早期における抗酸化作用を有するビリルビンと脳酸素消費率の変動の関連性	日下 隆	小児科学	910,000	(補委) 文部科学省
薬物のヒト血清アルブミンからのビリルビン遊離作用の研究	岡田 仁	小児科学	1,170,000	(補委) 文部科学省
アルツハイマー病と血液脳関門不全の関連について小動物用MRIを用いた研究	中村 祐	精神神経医学	1,820,000	(補委) 文部科学省
核酸代謝および低酸素イメージングを用いた脳腫瘍の治療戦略に関する研究	山本 由佳	放射線医学	1,300,000	(補委) 文部科学省
核酸誘導体を用いた頭頸部癌のPET分子イメージング研究	西山 佳宏	放射線医学	1,300,000	(補委) 文部科学省
レシピエントの生体内で血管柄付き同種骨を作成する試み-培養骨髄細胞の利用-	加地 良雄	整形外科	1,040,000	(補委) 文部科学省
オルファン型核内レセプターNR4A1に対する新規リガンドの膀胱癌治療への応用	田岡 利宜也	泌尿器科学	1,950,000	(補委) 文部科学省
がん化学療法中の制吐剤定期的時間差療法と光療法を利用した制吐療法の開発	植村 麻希子	血液・免疫・呼吸器内科学	650,000	(補委) 文部科学省
新生児低酸素性虚血性脳症に対する低体温療法及び新規治療薬の治療効果判定方法の確立	中村 信嗣	小児科	1,170,000	(補委) 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
非小細胞肺癌におけるデジタル画像解析システムを用いた核グレード判定に関する検討	門田 球一	病理部	2,210,000	(補委) 文部科学省
新生児期の低酸素性虚血による多臓器障害の病態生理と治療に関する研究	久保 裕之	小児外科学	1,560,000	(補委) 文部科学省
バレット食道腺癌におけるアンジオテンシンII受容体拮抗薬の抗腫瘍効果の基礎的研究	藤原 新太郎	消化器・神経内科学	910,000	(補委) 文部科学省
新生児壊死性腸炎に対する糞便移植の有効性に関する研究	藤井 喬之	小児外科学	2,470,000	(補委) 文部科学省
高齢者使用に関する医薬品情報収集・提供の現状分析と今後のあり方に関する研究	池田 正行	医療情報部	1,560,000	(補委) 文部科学省
エクソソーム内microRNAを用いた非アルコール性脂肪性肝疾患の予後予測法開発	米山 弘人	消化器・神経内科学	2,470,000	(補委) 文部科学省
非アルコール性脂肪性肝炎進展を抑制するガレクチン9を制御するマイクロRNAの同定	森下 朝洋	消化器・神経内科学	1,950,000	(補委) 文部科学省
PET画像再構成アルゴリズムがフラクタル次元へ与える影響についての研究	前田 幸人	放射線部	1,820,000	(補委) 文部科学省
脳循環酸素代謝変化を指標とした新しい新生児蘇生法の確立	近藤 園子	小児科学	2,340,000	(補委) 文部科学省
ビリルビン代謝と脳血管内皮の機能的成熟評価による早産児核黄疸予防の基礎的検討	岩瀬 孝志	小児科学	1,950,000	(補委) 文部科学省
重症壊死性腸炎に対する希少糖生理作用の解明と新規予防的治療方法への展開	下野 隆一	小児外科学	2,080,000	(補委) 文部科学省
新規アデニン類縁体コアクトルによる線維化進展抑制機構の解明－強皮症をモデルに－	窪田 泰夫	皮膚科学	1,690,000	(補委) 文部科学省
PTPE前後における新たな肝予備能評価法の開発	佐野村 隆行	放射線医学	2,600,000	(補委) 文部科学省
IMRTなど高精度放射線治療に適用する呼吸停止下照射システムの開発に関する研究	柴田 徹	放射線治療部	650,000	(補委) 文部科学省
D-アロース多段階使用による脾臓移植成績向上の研究	鈴木 康之	消化器外科学	780,000	(補委) 文部科学省
非小細胞肺癌CSC特異マーカーの同定及び肺癌根治療法の開発	劉 大革	呼吸器・乳腺内分泌外科学	1,820,000	(補委) 文部科学省
肺移植後慢性拒絶反応に対するヘパリン徐放ゼラチンハイドロゲルを用いた治療法の開発	垂水 晋太郎	呼吸器・乳腺内分泌外科学	1,560,000	(補委) 文部科学省
ラット脳出血モデルにおけるDFX治療の至適用法・容量の検討	岡内 正信	脳神経外科学	3,900,000	(補委) 文部科学省
早期前立腺癌に対する監視療法の精度を高めるためのmpMRIプロトコルの確立	杉元 幹史	泌尿器・副腎・腎移植外科	1,690,000	(補委) 文部科学省
内耳(内リンパ嚢、血管束)におけるイオン輸送および制御機構の研究	宮下 武憲	耳鼻咽喉科学	1,820,000	(補委) 文部科学省
アルドステロンによる網膜神経節細胞死のメカニズムの解明	廣岡 一行	眼科学	1,300,000	(補委) 文部科学省
新規希少糖の口腔内常在性菌に対する作用の研究	小川 尊明	歯・顎・口腔外科	2,470,000	(補委) 文部科学省
子宮頸癌における軟性内視鏡(拡大観察・狭帯域光観察)の有用性	大森 典子(西山)	内視鏡診療部	1,560,000	(補委) 文部科学省
血清中マイクロRNAを用いた炎症性腸疾患に対する疾患鑑別および病勢判定の確立	谷内田 達夫	総合内科	2,340,000	(補委) 文部科学省
深層学習と意味解析を組み合わせた臨床研究データを標準化する手法の開発	西本 尚樹	臨床研究支援センター	3,640,000	(補委) 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
認知症における脈絡叢を介した尿酸の脳内移行の影響について	植村 直哉	麻酔・ペインクリニック科	1,300,000	(補) 文部科学省 (委)
がん骨転移病変における血液凝固能の状態とfibrocyteが与える骨形成効果	内田 俊平	血液内科	650,000	(補) 文部科学省 (委)
免疫調節物質ガレクチン-9を用いたIgA腎症の病態解明	守時 政宏	腎臓内科	1,300,000	(補) 文部科学省 (委)
18F-FLT PETを用いた心サルコイドーシスの活動性評価に関する研究	則兼 敬志	放射線診断科	1,170,000	(補) 文部科学省 (委)
膀胱がんに対するヤーコン由来新規セスキテルペンラクトンの抗がん作用機序の解明	林田 有史	救命救急センター	1,170,000	(補) 文部科学省 (委)
微小振動子による定量的触覚検査法の確立と末梢神経障害の早期発見への応用	檀上 淳一	精神科神経科	1,300,000	(補) 文部科学省 (委)
幹細胞癌に対する降圧薬テルミサルタンの抗腫瘍効果とそのメカニズムの基礎的検討	豊田 由花	消化器内科	1,430,000	(補) 文部科学省 (委)

小計 7  
合計 83

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。



(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Kanaji N	Department of Internal Medicine, Division of Hematology, Rheumatology and Respiratory Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University,	Fibronectin and Hepatocyte Growth Factor Produced by Lung Fibroblasts Augment Migration and Invasion of Malignant Pleural Mesothelioma Cells.	Anticancer Res. 37(5):2393-2400. 2017.5	Original Article
2	Imataki O	Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Low-dose anti- thymocyte globulin reduce severe acute and chronic graft- versus-host disease after allogeneic stem cell transplantation.	J Cancer Res Clin Oncol. 143(4):709-715 2017.4	Original Article
3	Imataki O	Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Acquired Inhibitors to Multiple Coagulation Factors (V, IV, and X II) Identified in a Unique Patient with Hepatocellular Carcinoma.	Intern Med. 56(10):1203-1206 2017.5	Case report
4	Kanaji N	Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Hepatocyte growth factor produced in lung fibroblasts enhances non- small cell lung cancer cell survival and tumor progression.	Respir Res. 18(1):118 2016.6	Original Article

小計 4

5	Kanaji N	Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Peripheral-type small cell lung cancer is associated with better survival and higher frequency of interstitial lung disease.	Lung Cancer. 108:126-133 2017.6	Original Article
6	Imataki O	Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Bladder rupture after chronic hemorrhagic cystitis in a stem cell transplantation recipient.	Transplantation. 101(8):e280-e281. 2017.8	Original Article
7	Kadowaki N	Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Cytomegalovirus pulls strings behind NK cells	Oncotarget 28;8(55):93297-93298. doi: 10.18632/oncotarget.21377 2017.9	Review
8	Imataki O	Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	[Fresh Frozen Plasma Provides Endothelial Protection When Administered Early after Stem Cell Transplantation].	Diagn Pathol 44(10):861-865 2017.10	Original Article
9	Imataki O	Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Complete mimicry: a case of alveolar rhabdomyosarcoma masquerading as acute leukemia	Diagn Pathol 28;8(55):93297-93298. doi: 10.18632/oncotarget.21377 2017.11	Review
10	Imataki O	Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Methionine PET Might Be Reliable for the Detection of Low M-Protein-Producing Myelomas.	Clin Nucl Med 42(11):e469-e471. doi: 10.1097 2017.11	Review

11	Imataki O	Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Anemia and hypogammaglobul inemia caused by Ménétrier's disease	Int J Hematol 107(1):3- 4. doi: 10.1007/s12185- 017-2349-3 2018.1	Review
12	Kadowaki N	Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Guest editorial: advances in immunotherapy for hematological malignancies	Int J Hematol 107(3):260-261. doi: 10.1007/s12185-018- 2420-8 2018.2	Review
13	Imataki O	Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Bendamustine and G-CSF support.	Support Care Cancer doi: 10.1007/s00520- 018-4118-0. [Epub ahead of print] 2018.2	Letter
14	Imataki O	Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Comparison of Nutrition-Related Adverse Events and Clinical Outcomes Between ICE (Ifosfamide, Carboplatin, and Etoposide) and MCEC (Ranimustine, Carboplatin, Etoposide, and Cyclophosphamid e) Therapies as Pretreatment for Autologous Peripheral Blood Stem Cell Transplantation in Patients with Malignant Lymphoma	Med Sci Monit Basic Res 24:31-39 2018.2	Review

15	Kanaji N	Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Additive antitumour effect of D-allose in combination with cisplatin in non-small cell lung cancer cells	Oncol Rep 39(3):1292-1298 2018.3	Review
16	Imataki O	Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Voriconazole concentration is inversely correlated with corticosteroid usage in immunocompromised patients	Transpl Infect Dis 23:e12886 2018.3	Review
17	Tenkumo Chiaki	Department of Perinatology and Gynecology, Kagawa University Graduate School of Medicine	HDlive Flow with HDlive silhouette mode in the diagnosis of fetal hepatic hemangioma.	Ultrasound Obstet Gynecol 49(4):541-542, 2017年4月	Case report
18	Yamamoto Kenta	Department of Perinatology and Gynecology, Kagawa University Graduate School of Medicine	HDlive silhouette inversion mode in diagnosis of complete hydatidiform mole.	Ultrasound Med. 36(4):833-835, 2017年4月	Case report
19	Aboellail MAM	Department of Perinatology and Gynecology, Kagawa University Graduate School of Medicine	Fetal face as important indicator of fetal brain function.	J Perinat Med 45(6):729-736, 2017年8月	Review
20	Sajapala S.	Department of Perinatology and Gynecology, Kagawa University Graduate School of Medicine	4D ultrasound study of fetal movement early in the second trimester of pregnancy.	J Perinat Med 45(6):737-743, 2017年8月	Original Article

21	Ito Megumi	Department of Perinatology and Gynecology, Kagawa University Graduate School of Medicine	HDlive Flow silhouette mode and spatiotemporal image correlation for diagnosing congenital heart disease.	Ultrasound Obstet Gynecol 50(3)411-415、2017年9月	Others
22	Liu D	Department of Thoracic, Breast and Endocrine Surgery	Customized Adjuvant Chemotherapy Based on Biomarker Examination May Improve Survival of Patients Completely Resected for Non-small-cell Lung Cancer.	Anticancer Res.·37·5·2501-2507·2017.5	Original Article
23	Okuda M	Department of Thoracic, Breast and Endocrine Surgery	Risk factor of bronchopleural fistula after general thoracic surgery:	Gen Thorac Cardiovasc Surg. ·65·12·679-685·2017.12	Review
24	Norimura S	Department of Thoracic, Breast and Endocrine Surgery	Candidate biomarkers predictive of anthracycline and taxane efficacy against breast cancer.	J Cancer Res Ther. ·14·2·409-415·2018.1-3	Original Article
25	Tomoya Okazaki	Emergency Medical Center, Kagawa University Hospital, Ikenobe, Miki, Kita, Kagawa, Japan.	Target serum sodium levels during intensive care unit management of aneurysmal subarachnoid hemorrhage	Shock 2017;48:5:558-563	Original Article

26	Tomoya Okazaki	Emergency Medical Center, Kagawa University Hospital, Ikenobe, Miki, Kita, Kagawa, Japan.	Serial blood lactate measurements and its prognostic significance in intensive care unit management of aneurysmal subarachnoid hemorrhage patients.	J Crit Care 2017;41:229-233	Original Article
27	Tomoya Okazaki	Emergency Medical Center, Kagawa University Hospital, Ikenobe, Miki, Kita, Kagawa, Japan.	Association between dexmedetomidine use and neurological outcomes in aneurysmal subarachnoid hemorrhage patients: A retrospective observational study.	J Crit Care 2017;44:111-116	Original Article
28	Toru Hifumi	Emergency Medical Center, Kagawa University Hospital, Ikenobe, Miki, Kita, Kagawa, Japan.	Combined therapy with gas gangrene antitoxin and recombinant human soluble thrombomodulin for Clostridium perfringens sepsis in a rat model.	Toxicon 2017;141:112-117	Original Article
29	Toru Hifumi	Emergency Medical Center, Kagawa University Hospital, Ikenobe, Miki, Kita, Kagawa, Japan.	Therapeutic hypothermia in patients with coagulopathy following severe traumatic brain injury.	Scand J Trauma Resusc Emerg Med 2017;25:1:120	Original Article
30	Toru Hifumi	Emergency Medical Center, Kagawa University Hospital, Ikenobe, Miki, Kita, Kagawa, Japan.	Clinical Serum Therapy – benefits, cautions, and potential applications –	Keio J Med 2017 66:4:57-64	Review

31	Nagasao Tomohisa	Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Faculty of Medicine/Graduate School of Medicine, Kagawa University, Ikenobe, Japan	Biomechanical Analysis of Likelihood of Optic Canal Damage in Peri-Orbital Fracture	Comput Assist Surg (Abingdon) (2018 Dec;23(1):1-7.)	Original Article
32	Aizezi Niyazi	Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Faculty of Medicine/Graduate School of Medicine, Kagawa University, Ikenobe, Japan	Separation patterns of orbital wall and risk of optic canal injury in Le Fort 3 osteotomy	J Craniomaxillofac Surg. (2018 Mar;46(5):795-801.)	Original Article
33	Tanaka Yoshio	Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Faculty of Medicine/Graduate School of Medicine, Kagawa University, Ikenobe, Japan	Effects of platelet-rich plasma on tissue-engineered vascularized flaps in an in vivo chamber.	J Plast Reconstr Aesthet Surg. (2018 Mar 7. pii: S1748-6815(18)30082-2)	Original Article
34	Nagasao Tomohisa	Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Faculty of Medicine/Graduate School of Medicine, Kagawa University, Ikenobe, Japan	Thoracic outlet syndrome after the Nuss procedure for pectus excavatum: Is it a rare complication?	J Plast Reconstr Aesthet Surg. (2017 Oct;70(10):1433-1439.)	Original Article
35	Nagasao Tomohisa	Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Faculty of Medicine/Graduate School of Medicine, Kagawa University, Ikenobe, Japan	Preservation of deep-layer fat of lateral zones prevents postoperative seroma after TRAM-flap harvesting for breast reconstruction: a retrospective stud	J Plast Surg Hand Surg. (2017 Oct;51(5):323-328.)	Original Article
36	Hamamoto Yusuke	Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Faculty of Medicine/Graduate School of Medicine, Kagawa University, Ikenobe, Japan	Utilization of a sero-muscular patch for safe wound closure after free jejunum transfer for a skin-esophageal fistula.	Surg Today. (2017 Jul;47(7):891-894.)	Original Article

37	Khaleque Hasibul,	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University, Department of Microbiology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Department of Chemistry, Biotechnology, and Chemical Engineering, Graduate School of Science and Engineering, Kagoshima University, Department of Cellular and Molecular Medicine, Wakayama Medical University Graduate School of Medicine, Department of Cell Physiology, Faculty of Medicine, Kagawa University	D-Tagatose inhibits the growth and biofilm formation of Streptococcus mutans.	Mol Med Rep. 2018 Jan;17(1):843-851	Original Article
38	Umakoshi M	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University, Department of Environmental Health, National Institute of Public Health, Wako, Division of Bioengineering and Bioinformatics, Graduate School of Information Science and Technology, Hokkaido University, Sapporo, EPR Center for the Study of Viable Systems, Department of Radiology, The Geisel School of Medicine at Dartmouth, Lebanon	In Vivo Electron Paramagnetic Resonance Tooth Dosimetry: Dependence of Radiation-Induced Signal Amplitude on the Enamel Thickness and Surface Area of Ex Vivo Human Teeth.	Health Phys. 2017 Oct;113(4):262-270.	Original Article
39	Ohbayashi Y	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University, Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University, Department of Radiology, Faculty of Medicine, Kagawa University	The utility of bone scintigraphy in the assessment of mandibular metabolism during long-term bisphosphonate administration.	Odontology. 2017 Jul;105(3):382-390	Original Article



40	Hoshokawa H	Department of Otolaryngology Department of Cell Physiology	Combined treatment with D-allose, docetaxel and radiation inhibits the tumor growth in an in vivo model of head and neck cancer	Oncology Letters 15: 3422-3428, 2018 Mar.	Original Article
41	Akiyama K	Department of Otolaryngology Department of Cell Physiology	Clinical effects of submucosal middle turbinectomy for eosinophilic chronic rhinosinusitis	Auris Nasus Larynx 2017 Nov 24. pii: S0385-8146(17)30212-2.	Original Article
42	Yokohira M.	Department of Clinical Oncology, Kagawa University Faculty of Medicine Cancer Center, Kagawa University Hospital	Validating the use of napsin A as a marker for identifying tumorigenic potential of lung bronchiolo-alveolar hyperplasia in rodents	Toxicol. Pathol., 69(8):637-642. 2017	Original Article
43	Yachida T	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Faculty of Medicine, Kagawa 761-0792, Japan	Characteristics and Clinical Outcomes of Duodenal Neoplasia in Japanese Patients With Familial Adenomatous Polyposis.	J Clin Gastroenterol	Original Article
44	Mori H	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Faculty of Medicine, Kagawa 761-0793, Japan	Combination therapy of Over-The-Scope-Clip and covered metallic stent for refractory multiple esophagobronchial fistulae and stenosis.	Dig Endosc	Case report

45	Morishita A	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Faculty of Medicine, Kagawa 761-0794, Japan	MicroRNA profile of hepatic epithelioid hemangioendothelioma: A case report.	Oncol Lett	Case report
46	Chiyo T	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Faculty of Medicine, Kagawa 761-0795, Japan	Therapeutic potential of the antidiabetic drug metformin in small bowel adenocarcinoma.	Int J Oncol	Original Article
47	Mori H	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Faculty of Medicine, Kagawa 761-0796, Japan	Novel effective and repeatedly available ring-thread counter traction for safer colorectal endoscopic submucosal dissection.	Surg Endosc	Original Article
48	Nishiyama N	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Faculty of Medicine, Kagawa 761-0797, Japan	Flexible magnifying endoscopy with narrow band imaging for the diagnosis of uterine cervical tumors: A cooperative study among gastrointestinal endoscopists and gynecologists to explore a novel microvascular classification system.	Oncol Lett	Original Article
49	Mori H	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Faculty of Medicine, Kagawa 761-0798, Japan	Innovative delivery method of large polyglycolic acid sheet to cover the perforation of gastric ulcer by a detachable device.	Endoscopy	Case report

50	Tadokoro T	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Faculty of Medicine, Kagawa 761-0799, Japan	Galectin-9 ameliorates fulminant liver injury.	Mol Med Rep	Original Article
51	Mori H	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Faculty of Medicine, Kagawa 761-0800, Japan	Innovative delivery method using a detachable device to deliver a large polyglycolic acid sheet to a gastric ulcer perforation.	Endoscopy	Case report
52	Tadokoro T	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Faculty of Medicine, Kagawa 761-0801, Japan	Induction of apoptosis by Galectin-9 in liver metastatic cancer cells: In vitro study.	Int J Oncol	Original Article
53	Kobara H	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Faculty of Medicine, Kagawa 761-0802, Japan	Comparison of submucosal tunneling biopsy versus EUS-guided FNA for gastric subepithelial lesions: a prospective study with crossover design.	Endosc Int Open	Original Article
54	Nishiyama N	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Faculty of Medicine, Kagawa 761-0803, Japan	Surgery avoided by the use of over-the-scope clips for severe duodenal complications associated with endoscopic mucosal resection.	Endoscopy	Case report

55	Kobayashi N	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Faculty of Medicine, Kagawa 761-0804, Japan	Novel approach of laparoscopic and endoscopic cooperative surgery (LECS) for cholecystectomy.	Minim Invasive Ther Allied Technol	Original Article
56	Kobara H	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Faculty of Medicine, Kagawa 761-0805, Japan	The Advantage of an Endoscopic Submucosal Tunneling Technique for Rectal Carcinoid Tumors.	Gut and Liver	Case report
57	Kobayashi N	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Faculty of Medicine, Kagawa 761-0806, Japan	Funnel-shaped retrieval device for wrapping large colorectal resection specimens.	Endoscopy	Case report
58	Oura K	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Faculty of Medicine, Kagawa 761-0807, Japan	Telmisartan inhibits hepatocellular carcinoma cell proliferation in vitro by inducing cell cycle arrest.	Oncol Rep	Original Article
59	Mori H	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Faculty of Medicine, Kagawa 761-0808, Japan	Oval mucosal opening bloc biopsy after incision and widening by ring thread traction for submucosal tumor.	World J Gastroenterol	Original Article
60	Samukawa E	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Faculty of Medicine, Kagawa 761-0809, Japan	Angiotensin receptor blocker telmisartan inhibits cell proliferation and tumor growth of cholangiocarcinoma through cell cycle arrest.	Int J Oncol	Original Article

61	Mori H	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Faculty of Medicine, Kagawa 761-0810, Japan	One-to-One Correspondence Locations of Resected Polyps after Endoscopic Resection Using Catcher Tagged Method: A Randomized Prospective Study.	Digestion	Original Article
62	Mori H	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Faculty of Medicine, Kagawa 761-0811, Japan	Rare Primary Esophageal Paget's Disease Diagnosed on a Large Bloc Specimen Obtained by Endoscopic Mucosal Resection.	J Gastrointestin Liver Dis	Case report
63	Tadokoro T	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Faculty of Medicine, Kagawa 761-0812, Japan	Severe Steroid-responsive Skin Disorders Related to Ledipasvir and Sofosbuvir for HCV.	Intern Med	Case report
64	Mori H	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Faculty of Medicine, Kagawa 761-0813, Japan	Novel concept of endoscopic device delivery station system for rapid and tight attachment of polyglycolic acid sheet.	World J Gastroenterol	Original Article
65	Mori H	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Faculty of Medicine, Kagawa 761-0814, Japan	Efficacy of innovative polyglycolic acid sheet device delivery station system: a randomized prospective study.	Surg Endosc	Original Article

66	Morishita A	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Faculty of Medicine, Kagawa 761-0815, Japan	Targeted sequencing of cancer-associated genes in hepatocellular carcinoma using next-generation sequencing.	Oncol Lett	Original Article
67	Goda Y	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Faculty of Medicine, Kagawa 761-0816, Japan	Therapeutic application of linked color imaging for colorectal endoscopic mucosal resection.	Endoscopy	Original Article
68	Kume K	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Faculty of Medicine, Kagawa 761-0817, Japan	Serum microRNA expression profiling in patients with multiple system atrophy.	Mol Med Rep	Original Article
69	Fujita K	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Faculty of Medicine, Kagawa 761-0818, Japan	Correlation between serum galectin-9 levels and liver fibrosis.	J Gastroenterol Hepatol	Original Article
70	Kobayashi N	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Faculty of Medicine, Kagawa 761-0819, Japan	Reliable procedure of polyglycolic acid sheet delivery and placement on gastric artificial floor: Application of wafer paper and thread.	abstract available	Original Article

71	Okano K	Department of Gastroenterological Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University	A Prospective Phase II Trial of Neoadjuvant S-1 with Concurrent Hypofractionated Radiotherapy in Patients with Resectable and Borderline Resectable Pancreatic Ductal Adenocarcinoma.	Ann Surg Oncol 2017 Sep;24(9):2777-2784.	Original Article
72	Akamoto S	Department of Gastroenterological Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University	Renal Function Does Not Deteriorate after Elective Digestive Surgery in Severe Chronic Kidney Disease Patients in the Predialysis State.	Am Surg. 2017 Mar 1;83(3):e102-103.	Original Article
73	Okano K	Department of Gastroenterological Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University	<sup>18</sup> F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography to indicate conversion surgery in patients with initially unresectable locally advanced pancreatic cancer.	Jpn J Clin Oncol. 2018	Original Article
74	Ikeda Y	Histology and Cell Biology	Rac1 switching at the right time and location is essential for Fc $\gamma$ receptor-mediated phagosome formation.	J Cell Sci. 2017 Aug 1;130(15):2530-2540.	Original Article
75	Egami Y	Histology and Cell Biology	Transient recruitment of M-Ras GTPase to phagocytic cups in RAW264 macrophages during Fc $\gamma$ R-mediated phagocytosis.	Microscopy, 11 January 2018;68-74.	Original Article

76	Egami Y	Histology and Cell Biology	RhoC regulates the actin remodeling required for phagosome formation during Fc $\gamma$ R-mediated phagocytosis.	Journal of Cell Science (2017) 130, 4168–4179.	Original Article
77	Okada M	Department of Neurological Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University, Japan	Glioblastoma Treatment in the Elderly.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2017 Dec 15;57(12):667–676.	Review
78	Kouchi M	Department of Neurological Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University, Japan	(Pro)renin receptor is crucial for glioma development via the Wnt/ $\beta$ -catenin signaling pathway.	J Neurosurg. 2017 Oct;127(4):819–828	Original Article
79	Matsumoto A	Department of Neurological Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University, Japan	Cavernous sinus dural arteriovenous fistula treated by facial vein direct puncture: Case report and review of the literature.	Interv Neuroradiol. 2017 Jun;23(3):301–306.	Case report
80	Okauchi M	Department of Neurological Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University, Japan	Middle- and long-term results of stent-assisted coil embolization for cerebral aneurysms: Evaluation of changes in the aneurysmal occlusion and complications	Journal of Neuroendovascular Therapy. 11: 59–64, 2017	Original Article



81	Shindo A	Department of Neurological Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University, Japan	Two cases of intracranial internal carotid artery dissection presenting with ischemic stroke.	Journal of Neuroendovascular Therapy. 11: 253-259, 2017	Case report
82	Taoka R	Department of Urology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Takamatsu, Kagawa, Japan.	The influence of asymptomatic inflammatory prostatitis on the onset and progression of lower urinary tract symptoms in men with histologic benign prostatic hyperplasia.	BJU Int. 2018 May;121(5):737-744.	Others
83	Takehi Y	Department of Urology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Takamatsu, Kagawa, Japan.	Evidenced-based clinical practice guideline for prostate cancer (summary: Japanese Urological Association, 2016 edition).	Int J Urol. 2017 Sep;24(9):648-666.	Others
84	Naito H	Department of Urology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Takamatsu, Kagawa, Japan.	[Clinical Significance of Neutrophil-to-Lymphocyte Ratio in Patients with Prostate Cancer].	Hinyokika Kyo. 2017 Feb;63(2):63-67	Others
85	Kato T	Department of Urology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Takamatsu, Kagawa, Japan.	Retroperitoneal liposarcoma excreting insulin-like growth factor 2 that induced severe hypoglycemia.	Int J Urol. 2017 Feb;24(2):162-165	Others
86	Taoka R	Department of Urology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Takamatsu, Kagawa, Japan.	CF3DODA-Me induces apoptosis, degrades Sp1, and blocks the transformation phase of the blebbishield emergency program.	Apoptosis. 2017 May;22(5):719-729	Others

87	Kozo Yoneda	Department of Dermatology, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Localized nodular pemphigoid.	Int J Dermatol., 57巻5号587-589頁	Original Article
88	Nakai K	Department of Dermatology, Kagawa University, Kagawa, Japan.	IL-17A induces heterogeneous macrophages, and it does not alter the effects of lipopolysaccharides on macrophage activation in the skin of mice.	Sci Rep. 2017 Sep 29;7(1):12473.	Others
89	Kyuichi Kadota	Departments of Diagnostic Pathology, Faculty of Medicine, Kagawa University	Tumor Spread Through Air Spaces Is an Independent Predictor of Recurrence-free Survival in Patients With Resected Lung Squamous Cell Carcinoma	Am J Surg Pathol. 2017 Aug;41(8):1077-1086	Original Article
90	Kyuichi Kadota	Departments of Diagnostic Pathology, Faculty of Medicine, Kagawa University	A Grading System Combining Tumor Budding and Nuclear Diameter Predicts Prognosis in Resected Lung Squamous Cell Carcinoma	Am J Surg Pathol. 2017 Jun;41(6):750-760	Original Article
91	Okano K1	Department of Clinical Oncology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	<sup>18</sup> F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography to indicate conversion surgery in patients with initially unresectable locally advanced pancreatic cancer.	Jpn J Clin Oncol. 2018 Mar 26. doi: 10.1093/jco/hyy033.	Others

92	Okuyama H	Department of Clinical Oncology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Transarterial (Chemo)Embolization for Liver Metastases in Patients with Neuroendocrine Tumors.	Oncology 2017;92(6):353-359	Others
93	Yoshio Kaji	Department of Orthopaedic Surgery, Kagawa University Faculty of Medicine,	Localized type Volkmann's contracture treated with tendon transfer and tension-reduced early mobilization: A case report.	Medicine (Baltimore). 2017 Jan; 96(1): e5807.	Case report
94	Yuki Nakano	Department of Ophthalmology, Kagawa University Faculty of Medicine	The effect of vitreomacular and cataract surgery on oxygen saturation in retinal vessels.	Clinical Ophthalmology 11:759-765, 2017	Original Article
95	Kazuyuki Hirooka	Department of Ophthalmology, Kagawa University Faculty of Medicine	Vision-related quality of life following glaucoma filtration surgery.	BMC Ophthalmology 17:66, 2017	Original Article
96	Eri Nitta	Department of Ophthalmology, Kagawa University Faculty of Medicine	Retinal oxygen saturation before and after glaucoma surgery.	Acta Ophthalmologica 95(5):e350-e353, 2017	Original Article
97	Saki Manabe	Department of Ophthalmology, Kagawa University Faculty of Medicine	Association between parafoveal capillary nonperfusion and macular function in eyes with branch retinal vein occlusion.	Retina 37(9):1731-1737, 2017	Original Article

98	Rie Osaka	Department of Ophthalmology, Kagawa University Faculty of Medicine	Paravascular inner retinal abnormalities in healthy eyes.	Graefe's Archive for Clinical and Experimental Ophthalmology 255(9):1743-1748, 2017	Original Article
99	Koichiro Manabe	Department of Ophthalmology, Kagawa University Faculty of Medicine	Metamorphopsia associated with central retinal vein occlusion.	PLoS ONE 12(10):e0186737, 2017	Original Article
100	Rie Osaka	Department of Ophthalmology, Kagawa University Faculty of Medicine	Clinical features of treated and untreated type 1 idiopathic macular telangiectasia without the occurrence of secondary choroidal neovascularization followed for 2 years in Japanese patients.	Retina 38(Suppl 1):S114-S122, 2018	Original Article
101	Rie Osaka	Department of Ophthalmology, Kagawa University Faculty of Medicine	Anti-Vascular Endothelial Growth Factor Therapy for Macular Edema Following Central Retinal Vein Occlusion: One Initial Injection Versus Three Monthly Injections.	Ophthalmologica 239(1):27-35, 2018	Original Article
102	Lyu J	Division of Hematology, Rheumatology and Respiratory Medicine, Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University,	Thyroid stimulating hormone stimulates the expression of glucose transporter 2 via its receptor in pancreatic $\beta$ cell line, INS-1 cells.	Sci Rep	Original Article

103	Jiang Y	Division of Hematology, Rheumatology and Respiratory Medicine, Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University,	Cardioprotective Effects of Serca2a Overexpression Against Ischemiareperfusion-induced Injuries in Rats	Curr Gene Ther	Original Article
104	Tajima-Shirasaki N	Division of Hematology, Rheumatology and Respiratory Medicine, Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University,	Eicosapentaenoic acid down-regulates expression of the selenoprotein P gene by inhibiting SREBP-1c protein independently of the AMP-activated protein kinase pathway in H4IIEC3 hepatocytes.	J Biol Chem	Original Article
105	Zhang XZ	Division of Hematology, Rheumatology and Respiratory Medicine, Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University,	Prolactin regulatory element-binding protein is involved in suppression of the adiponectin gene in vivo.	J Endocrinol Invest.	Original Article
106	Naoya Uemura	Anesthesiology, Pathology and Host Defense, Perinatology and Gynecology	Immunoreactivity of urate transporters, GLUT9 and URAT1, is located in epithelial cells of the choroid plexus of human brains	Neuroscience Letters, 659, 99-103, 2017	Original Article
107	TANAKA, Aya	Department of Pediatric Surgery, Pediatrics, Molecular Microbiology, Faculty of Medicine, Kagawa University	Nutritional Benefit of Recycling of Bowel Content in an Infant With Short Bowel Syndrome	J Pediatr Gastroenterol Nutr, 65(3), e75-e76, 2017年9月、	Original Article

108	Yoshihito Matsumura	Department of Neuropsychiatry, Kagawa University, Japan	Simulating Clinical Psychiatry for Medical Students: a Comprehensive Clinic Simulator with Virtual Patients and an Electronic Medical Record System	Acad Psychiatry. 2017 Nov 30. doi: 10.1007/s40596-017-0860-8.	Others
109	Danjo J	Department of Neuropsychiatry, Kagawa University, Japan	Diabetic Neuropathy: A Focus on the Testing Method	Int J Fam Commun Med 2018;2(1):1-5.	Review
110	Sonoko Danjo	Department of Neuropsychiatry, Kagawa University, Japan	A Case Report of Yi-Gan San for the Treatment of Visual Hallucinations in a Patient with Charles Bonnet Syndrome Secondary Due to a Meningioma.	Journal of Surgery and Emergency Med. 2018: Volume 2, Issue 1.	Case report
111	Uemura N	Department of Anesthesiology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa 761-0793, Japan	Immunoreactivity of urate transporters, GLUT9 and URAT1, is located in epithelial cells of the choroid plexus of human brains.	Neurosci Lett 2017;659:99-103. 2017年10月	Original Article
112	Yokoyama K	Department of Anesthesiology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa 761-0794, Japan	Sex differences in attachment to spouses among older Japanese couples.	Geriatr Gerontol Int 2017;17:834-838. 2017年5月	Original Article

113	Ishikawa shohei	Department of Cardiorenal and Cerebrovascular Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Apoptosis inhibitor of macrophage depletion decreased M1 macrophage accumulation and the incidence of cardiac rupture after myocardial infarction in mice.	PLos One. 2017; 12(11): e0187894	Original Article
114	Kawakami Ryo	Department of Cardiorenal and Cerebrovascular Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Role of the Low-Density Lipoprotein-Cholesterol/High-Density Lipoprotein-Cholesterol Ratio in Predicting Serial Changes in the Lipid Component of Coronary Plaque.	Circ J. 2017; 81(1): 55-68	Original Article
115	Minamino Tetsuo	Department of Cardiorenal and Cerebrovascular Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Low-Dose Erythropoietin in Patients With ST-Segment Elevation Myocardial Infarction (EPO-AMI-II) – A Randomized Controlled Clinical Trial.	Circ J. 2018; 82(4): 1083-91	Original Article
116	Kawakami Ryo	Department of Cardiorenal and Cerebrovascular Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Development of vaccine for dyslipidemia targeted to a proprotein convertase subtilisin/kexin type 9 (PCSK9) epitope in mice.	PLos One. 2018; 13(2): e0191895	Original Article
117	Kondo S	Department of Pediatrics, Faculty of Medicine, Kagawa University	Case of pediatric traditional serrated adenoma resected via endoscopic submucosal dissection.	World J Gastroenterol, 23(24):4462-4466, 2017	Case report

118	Itoh S	Department of Pediatrics, Faculty of Medicine, Kagawa University	Phototherapy for neonatal hyperbilirubinemi a.	Pediatr Int, 59(9):959- 966, 2017	Review
119	Nakamura S	Department of Pediatrics, Faculty of Medicine, Kagawa University	Cerebral haemodynamic response to somatosensory stimulation in neonatal lambs.	J Physiol, 595(17):6007-6021, 2017	Original Article
120	Tanaka A	Department of Pediatrics, Faculty of Medicine, Kagawa University	Nutritional Benefit of Recycling of Bowel Content in an Infant with Short Bowel Syndrome.	J Pediatr Gastroenterol Nutr, 65(3):75-76, 2017	Case report
121	Okada H	Department of Pediatrics, Faculty of Medicine, Kagawa University	Reactivity of bilirubin photoisomers on the measurement of direct bilirubin using vanadic acid method.	Ann Clin Biochem, 55(2):296-298, 2018	Original Article
122	Okada H	Department of Pediatrics, Faculty of Medicine, Kagawa University	Effects of bilirubin photoisomers on the measurement of direct bilirubin by the bilirubin oxidase method.	Ann Clin Biochem, 55(2):276-280, 2018	Original Article
123	Kondo T	Department of Pediatrics, Faculty of Medicine, Kagawa University	Application of over-the-scope clip for massive duodenal ulcer bleeding in a 4- year-old boy weighing 7.8 kg.	Endoscopy, 50(2):46-47, 2018	Case report



124	Ozaki Taro	Division of Nephrology and Dialysis, Department of Cardiorenal and Cerebrovascular Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Severe glyphosate-surfactant intoxication successfully treated with continuous hemodiafiltration and direct hemoperfusion: case report.	Ther Apher Dial. 2017; 21(3): 296-297	Case report
125	Sofue Tadashi	Division of Nephrology and Dialysis, Department of Cardiorenal and Cerebrovascular Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Tubular cell senescence in the donated kidney predicts allograft functions, but not donor remnant kidney functions, in living donor kidney transplantation.	Am J Nephrol. 2018;47(1):8-17	Original Article
126	Takemori T	Department of Orthopedic Surgery, Kagawa University Faculty of Medicine	A rare case of acute osteomyelitis due to Pantone-Valentine leukocidin-positive community-acquired methicillin-resistant Staphylococcus aureus in a young healthy adult.	Int J Surg case Rep. 2017 Feb;33:4-7	Case report
127	Yamaguchi K	Department of Orthopedic Surgery, Kagawa University Faculty of Medicine	Prefabrication of Vascularized Allogenic Bone Graft in a Rat by Implanting a Flow-Through Vascular Pedicle and Basic Fibroblast Growth Factor Containing Hydroxyapatite/ Collagen Composite.	J Reconstr Microsurg. 2017 Jun;33(5):367-376.	Original Article

128	Tanaka S	Department of Orthopedic Surgery, Kagawa University Faculty of Medicine	Clinical impact of sarcopenia and relevance of nutritional intake in patients before and after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation.	J Cancer Res Clin Oncol. 2017 Jun;143(6):1083-1092	Original Article
129	Mashiba T	Department of Orthopedic Surgery, Kagawa University Faculty of Medicine	Effects of suppressed bone remodeling by minodronic acid and alendronate on bone mass, microdamage accumulation, collagen crosslinks and bone mechanical properties in the lumbar vertebra of ovariectomized cynomolgus monkeys.	Bone. 2017 Apr;97:184-191	Original Article
130	Yamaguchi K	Department of Orthopedic Surgery, Kagawa University Faculty of Medicine	Prefabrication of Vascularized Allogenic Bone Graft in a Rat by Implanting a Flow-Through Vascular Pedicle and Basic Fibroblast Growth Factor Containing Hydroxyapatite/ Collagen	J Reconstr Microsurg. 2017 Jun;33(5):367-376	Original Article
131	Tanaka S	Department of Orthopedic Surgery, Kagawa University Faculty of Medicine	Clinical impact of sarcopenia and relevance of nutritional intake in patients before and after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation.	J Cancer Res Clin Oncol. 2017 Jun;143(6):1083-1092	Original Article

132	Mashiba T	Department of Orthopedic Surgery, Kagawa University Faculty of Medicine	Effects of suppressed bone remodeling by minodronic acid and alendronate on bone mass, microdamage accumulation, collagen crosslinks and bone mechanical properties in the lumbar vertebra of ovariectomized cynomolgus monkeys.	Bone. 2017 Apr;97:184-191.	Original Article
133	Takashi Norikane	Department of Radiology, Faculty of Medicine, Kagawa University,	Comparative evaluation of <sup>18</sup> F-FLT and <sup>18</sup> F-FDG for detecting cardiac and extra-cardiac thoracic involvement in patients with newly diagnosed sarcoidosis.	EJNMMI Research (7巻1号:69:2017/8)	Original Article
134	Yumiko Ohbayashi	Department of Radiology, Faculty of Medicine, Kagawa University,	The utility of bone scintigraphy in the assessment of mandibular metabolism during long-term bisphosphonate administration	Odontology (105巻3号:382-390:2017/7)	Original Article
135	Rahman A	Department of Pharmacology, Faculty of Medicine, Kagawa University	Cardioprotective effects of SGLT2 inhibitors are possibly associated with normalization of the circadian rhythm of blood pressure.	Hypertens Res. 40(6):533-540, 2017	Review

136	Rahman A	Department of Pharmacology, Faculty of Medicine, Kagawa University	Effect of a selective SGLT2 inhibitor, luseogliflozin, on circadian rhythm of sympathetic nervous function and locomotor activities in metabolic syndrome rats.	Clin Exp Pharmacol Physiol. 44(4): 522-525, 2017	Letter
137	Hasan AU	Department of Pharmacology, Faculty of Medicine, Kagawa University	GPR120 in adipocytes has differential roles in the production of pro-inflammatory adipocytokines.	Biochem Biophys Res Commun. 486(1):76-82, 2017	Original Article
138	Yoshimoto T	Department of Pharmacology, Faculty of Medicine, Kagawa University	Effects of sodium glucose cotransporter 2 inhibitors on urinary excretion of intact and total angiotensinogen in patients with type 2 diabetes.	J Investing Med. 65(7); 1057-1061, 2017	Original Article
139	Mori H	Department of Pharmacology, Faculty of Medicine, Kagawa University	Innovative delivery method using a detachable device to deliver a large polyglycolic acid sheet to a gastric ulcer perforation.	Endoscopy. 49(7):E165-E167, 2017	Original Article
140	Hasan AU	Department of Pharmacology, Faculty of Medicine, Kagawa University	IBMX protects human proximal tubular epithelial cells from hypoxic stress through suppressing hypoxia-inducible factor-1 $\alpha$ expression.	Exp Cell Res. 358(2); 343-351, 2017	Original Article

141	Hitomi H	Department of Pharmacology, Faculty of Medicine, Kagawa University	How should we treat patients with primary aldosteronism to prevent new-onset diabetes mellitus?	J Hypertens. 35(8): 1575-1576, 2017	Others
142	Ansary T	Department of Pharmacology, Faculty of Medicine, Kagawa University	Responses of renal hemodynamics and tubular functions to acute sodium-glucose cotransporter 2 inhibitor administration in non-diabetic anesthetized rats.	Sci Rep. 7(1): 9555, 2017	Original Article
143	Guan Y	Department of Pharmacology, Faculty of Medicine, Kagawa University	A protease-activated receptor-1 antagonist protects against podocyte injury in a mouse model of nephropathy.	J Pharmacol Sci. 135(2): 81-88, 2017	Original Article
144	Wang J	Department of Pharmacology, Faculty of Medicine, Kagawa University	High glucose augments angiotensinogen in human renal proximal tubular cells through hepatocyte nuclear factor-5.	PLoS ONE. 12(10): e0185600, 2017	Original Article
145	Ishikawa S	Department of Pharmacology, Faculty of Medicine, Kagawa University	Apoptosis inhibitor of macrophage depletion decreased M1 macrophage accumulation and the incidence of cardiac rupture after myocardial infarction in mice.	PLoS ONE. 12(11); e0187894, 2017	Original Article

146	Hitomi H	Department of Pharmacology, Faculty of Medicine, Kagawa University	Human pluripotent stem cell-derived erythropoietin-producing cells ameliorate renal anemia in mice	Sci Trans Med. 9(409); eaaj2300, 2017	Original Article
147	Sofue T	Department of Pharmacology, Faculty of Medicine, Kagawa University	Tubular cell senescence in the donated kidney predicts allograft function, but not donor remnant kidney function, in living donor kidney transplantation.	Am J Nephrol. 47(1); 8-17, 2018	Original Article
148	Yamazaki D	Department of Pharmacology, Faculty of Medicine, Kagawa University	Hypertension with diabetes mellitus "Complications".	Hypertens Res. 41(3); 147-156, 2018	Review
149	Hifumi T	Department of Pharmacology, Faculty of Medicine, Kagawa University	Combined therapy with gas gangrene antitoxin and recombinant human soluble thrombomodulin for clostridium perfringens sepsis in a rat model.	Toxicon. 141(1): 112-117, 2017	Original Article
150	Rahman A	Department of Pharmacology, Faculty of Medicine, Kagawa University	A novel approach to adenine-induced chronic kidney disease associated anemia in rodents.	PLoS ONE. 13(2): e0192531, 2018	Original Article

小計 5  
合計 150

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	今滝修	血液・免疫・呼吸器内科学	新鮮凍結血漿 (FFP)投与による 造血幹細胞移植 後早期血管内皮 障害の予防効果	癌と化学療法 44巻10 号 Page861-865 2017.10	Original Article
2	土橋浩章	血液・免疫・呼吸器内科学	【血管炎の臨床 UPDATE】多発 血管炎性肉芽腫 症	医学のあゆみ 263巻6 号 P511-515 2017.11	Review
3	土橋浩章	血液・免疫・呼吸器内科学	【リウマチ性多 発筋痛症】リウ マチ性多発筋痛 症と巨細胞性動 脈炎	リウマチ科 57巻6号 P566-571 2017.6	Review
4	今滝 修	血液・免疫・呼吸器内科学	尿細管への鉄沈 着を認めた剣道 行軍ヘモグロビ ン尿症候群の1 例	日本内科学会雑誌 106巻6号 Page1191- 1196 2017.6	Original Article
5	土橋浩章	血液・免疫・呼吸器内科学	膠原病合併肺高 血圧症診療の特 殊性	日本内科学会雑誌 107巻2号P214-218 2018.2	Review
6	土橋 浩章	血液・免疫・呼吸器内科学	【肺高血圧症の 診断と治療】膠 原病合併肺高血 圧症診療の特殊 性 膠原病合併 肺高血圧症診療 の特殊性	日本内科学会雑誌 107巻2号 Page214-218 2018.2	Review
7	喜田 裕介	呼吸器外科	肺内転移と鑑別 を要した4ヶ所同 時性多発肺癌の 1手術例	日本呼吸器外科学会雑 誌・31・5・662-666・ 2017.5	Case report

8	呉 哲彦	呼吸器外科	【局所進行肺癌の治療と成績】T4肺癌切除症例の検討	胸部外科・70・11・903-907・2017.10	Original Article
9	池田 敏裕	呼吸器外科	保存的治療により治癒にいたった外傷性気管損傷が疑われた1例	胸部外科・71・2・149-151・2018.2	Original Article
10	黒田泰弘	救命救急センター	心停止症候群における脳モニタリング	日本脳死脳蘇生学会雑誌29:2:75-78, 2017	Review
11	黒田泰弘	救命救急センター	心拍再開後の集中治療、予後評価	日本集中治療医学会雑誌 2017;24:151-183	Others
12	黒田泰弘	救命救急センター	体温管理療法と2015ガイドライン	麻酔 66:9 966-976 2017	Others
13	松本 絵里奈	形成外科	3次元モデルを術前計画に応用し眼窩内腫瘍の摘出を行った1例	日本頭蓋顎顔面外科学会誌 (0914-594X)33巻4号 Page137-141(2017.12)	Case report
14	永竿 智久	形成外科	【形成外科 珠玉のオペ[1]基本編-次世代に継承したい秘伝のテクニック-】基本手技 その他 血管重症下肢虚血手術に対するバイパス作成手術のコツ 血管の取り扱い方	形成外科 (0021-5228)60巻増刊 Page S116-S123(2017.09)	Original Article
15	永竿 智久	形成外科	【臨床現場で使える3Dプリンター】手術時の有効性が増す最新技術 大学病院における3Dプリンターがもたらす臨床および教育的価値	新医療 (0910-7991)44巻7号 Page96-99(2017.07)	Original Article



16	山下 亜矢子	歯・顎・口腔外科	挿管中のICU入室患者の気管/鼻腔における肺炎原因菌の経時的变化および意識レベルとの関連性	口腔衛生学会雑誌 (0023-2831)67巻2号 Page70-76(2017.04)	Original Article
17	秋山 貢佐	耳鼻咽喉科	好酸球性副鼻腔炎診療における呼気中一酸化窒素測定の意味	耳鼻咽喉科臨床 (0032-6313)110巻10号 Page707-714(2017.10)	Original Article
18	秋山 貢佐	耳鼻咽喉科	孤発性蝶形骨洞病変における2.2mm軟性内視鏡検査の有用性	耳鼻咽喉科臨床 (0032-6313)110巻9号 Page599-607(2017.09)	Original Article
19	米崎 雅史	耳鼻咽喉科	副咽頭間隙へ進展したダンベル型耳下腺ワルチン腫瘍例	耳鼻咽喉科臨床 (0032-6313)110巻4号 Page275-280(2017.04)	Case report
20	森 照茂	耳鼻咽喉科	経口的手術の手引き	頭頸部癌 (1349-5747)43巻4号 Page419-424(2017.12)	Review
21	森 照茂	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科・頭頸部外科医のみで行うELPS手技	頭頸部外科 (1349-581X)27巻1号 Page135-139(2017.06)	Review
22	稲本 隆平	耳鼻咽喉科	補聴器印象剤による耳小骨の骨折・離断を伴う中外耳異物の一例	Otology Japan (0917-2025)27巻5号 Page689-693(2017.12)	Case report
23	臼杵尚志	手術部	鏡視下手術時の体温変化と手術室建設時に行う術中保温対策	日本手術医学会誌 第38巻No2.P26-32 2017年	Original Article
24	臼杵尚志	手術部	全国アンケート調査、学内での細菌培養の結果から見た術前手指消毒	日本手術医学会誌 第38巻No4.P2-8 2017年	Original Article

25	臼杵尚志	手術部	全国アンケート調査、学内での細菌培養の結果から見た術前手指消毒	日本手術医学会誌 第38巻No4.P2-8 2017年	Original Article
26	小林聖幸	消化器・神経内科	頭部皮膚転移をきたした前治療歴のない肉腫様肝癌の1例	肝臓	Case report
27	松井崇矩	消化器・神経内科	Gemcitabine投与にて溶血性尿毒症症候群を発症した切除不能腭頭部癌の1例	香川県内科医会誌	Case report
28	岡内 正信	脳神経外科	中大脳動脈部分血栓化動脈瘤の2症例	脳卒中の外科45:403-408(2017.09)	Original Article
29	森崇洋	精神神経医学	認知症の危険因子としての睡眠障害	老年精神医学雑誌	Review
30	檀上淳一	精神神経医学	糖尿病性神経障害の早期発見：香川大学発の新規定量的触覚検査法の医工連携研究	香川大学生涯学習教育研究センター研究報告 2018;23(1): 43-64	Original Article
31	中野安耶子	麻酔・ペインクリニック科	帝王切開中に発症した子宮型羊水塞栓症によると思われる産科DICの1例.	麻酔と蘇生 2017;53:43-46. 2017年9月	Case report
32	伊東祥子	麻酔・ペインクリニック科	帯状疱疹関連痛と硬膜穿刺後頭痛に対し持続硬膜外ブロックが有効であった1症例	ペインクリニック 2017;38:1639-1642. 2017年12月	Case report
33	祖父江理	腎臓内科	腎移植後IgA腎症およびIgA沈着症	BioClinica 2017;32(5); 58-64	Review

34	尾崎太郎	循環器・腎臓・脳卒中内科	CTにて両側腎腫大を指摘された慢性腎臓病患者の1例	臨床透析 2017; 33(13): 1739-1746	Case report
35	西岡里香	循環器・腎臓・脳卒中内科	尿細管への鉄沈着を認めた剣道行軍ヘモグロビン尿症候群の1例	日本内科学会雑誌 2017;106(6):1191-1198	Case report
36	吉武新悟	整形外科	明らかな脱臼・亜脱臼の自覚がない外傷性肩前方不安定症の検討	肩関節 41巻2号 Page403-405(2017.09)	Original Article
37	川上翔平	整形外科	骨粗鬆症性椎体骨折後偽関節に対して施行した骨切り術の治療経験	中国・四国整形外科学会雑誌 29巻2号 Page291-296(2017.09)	Original Article
38	根ヶ山敬大	整形外科	THA術後にポリエチレンライナー脱転をきたした1例	中国・四国整形外科学会雑誌 29巻2号 Page255-259(2017.09)	Case report
39	鳶村将志	整形外科	寛骨臼回転骨切り術の長期成績に影響を及ぼす因子の検討	Hip Joint 43巻1号 Page404-408(2017.08)	Original Article
40	岩田 憲	整形外科	Pinnacle-UltametとS-ROM-アステムを使用したmetal on metal人工股関節全置換術の中期成績	Hip Joint 43巻1号 Page350-353(2017.08)	Original Article
41	小林裕正	整形外科	人工膝単顆置換術後6ヵ月のふだんの活動に影響する因子	JOSKAS 42巻3号 Page732-736(2017.06)	Original Article
42	鳶村将志	整形外科	大腿骨転子部骨折の側面像における術中の透視像と術後X線像の整復位の検討	骨折 40巻1号 Page185-188(2018.02)	Original Article

43	加地良雄	整形外科	【肘の靭帯損傷よりよく診るための私のコツ】新鮮肘側副靭帯複合体損傷の手術療法(内側および外側)	Orthopaedics 31巻2号 Page43-50(2018.02)	Review
44	飛梅祥子	整形外科	橈骨遠位端骨折に合併するTFCC損傷に対し、直視下縫合術を行った症例の治療成績	日本手外科学会雑誌 34巻4号 Page624-627(2018.01)	Original Article
45	鳶村 将志	整形外科	大腿骨転子部骨折の側面像における術中の透視像と術後X線像の整復位の検討	骨折 40巻1号 Page185-188 (2018.02)	Original Article
46	加地 良雄	整形外科	【肘の靭帯損傷よりよく診るための私のコツ】新鮮肘側副靭帯複合体損傷の手術療法(内側および外側)(解説/特集)	Orthopaedics 1巻2号 Page43-50 (2018.02)	Others
47	飛梅 祥子	整形外科	橈骨遠位端骨折に合併するTFCC損傷に対し、直視下縫合術を行った症例の治療成績	日本手外科学会雑誌 34巻4号 Page624-627 (2018.01)	Original Article
48	川上 翔平	整形外科	骨粗鬆症性椎体骨折後偽関節に対して施行した骨切り術の治療経験	中国・四国整形外科学会雑誌 )29巻2号 Page291-296 (2017.09)	Original Article
49	根ヶ山 敬大	整形外科	THA術後にポリエチレンライナー脱転をきたした1例	中国・四国整形外科学会雑誌 29巻2号 Page255-259 (2017.09)	Case report
50	鳶村 将志	整形外科	寛骨臼回転骨切り術の長期成績に影響を及ぼす因子の検討	Hip Joint 43巻1号 Page404-408 (2017.08)	Original Article
51	岩田 憲	整形外科	Pinnacle-UltametとS-ROM-アステムを使用したmetal on metal人工股関節全置換術の中期成績	Hip Joint 43巻1号 Page350-353 (2017.08)	Original Article

52	小林 裕生	整形外科	人工膝単顆置換術後6カ月のふだんの活動に影響する因子	JOSKAS (1884-8842)42巻3号 Page732-736(2017.06)	Original Article
53	板東 正記	整形外科	人工膝単顆置換術前後の歩行能力の推移 自由歩行、最大歩行、TUGについて	JOSKAS 42巻3号 Page727-731 (2017.06)	Original Article
54	紺谷 桂一	乳腺内分泌外科	原発性甲状腺癌の年齢による臨床病理学的特徴および予後の比較検討	四国医学雑誌、73(1, 2): 59-64, 2017	Original Article
55	西山 成	薬理学	慢性腎臓病研究の最新知見と将来展望	循環plus 17(5): 2-6, 2017	Review
56	山崎大輔	薬理学	腎臓から見た「脳-心-腎連関」	日本医事新報 4843: 33-38, 2017	Review
57	西山 成	薬理学	食塩感受性高血圧UPDATE 組織内レニン-アンジオテンシン系(RAS)の働き	医学のあゆみ 261(8): 803-806, 2017	Review
58	森澤紀彦	薬理学	腎臓の自律神経と血圧	最新醫學 72(11): 119- 122, 2017	Review
59	中野大介	薬理学	降圧薬の最新エビデンス	CURRENT THERAPY 36(1): 83-88, 2018	Review

小計 8  
合計59

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input type="checkbox"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input type="checkbox"/> 有・無
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 手順書の主な内容</li><li>1 医学部倫理委員会の趣旨及び設置<ul style="list-style-type: none"><li>(1) 趣旨</li><li>(2) 設置</li></ul></li><li>2 委員会の組織等<ul style="list-style-type: none"><li>(1) 組織</li><li>(2) 委員長</li><li>(3) 専門委員等</li></ul></li><li>3 委員会の任務</li><li>4 審査の観点</li><li>5 審査の開始<ul style="list-style-type: none"><li>(1) 審査の開始</li><li>(2) 審議方法の判定等</li></ul></li><li>6 通常審議<ul style="list-style-type: none"><li>(1) 委員会の開催</li><li>(2) 委員会の成立要件等</li><li>(3) 審査の判定及び通知</li></ul></li><li>7 迅速審査<ul style="list-style-type: none"><li>(1) 迅速審査の実施</li><li>(2) 審査の判定及び通知</li></ul></li><li>8 簡易審査<ul style="list-style-type: none"><li>(1) 簡易審査の実施</li><li>(2) 審査の判定及び通知</li></ul></li><li>9 緊急審査<ul style="list-style-type: none"><li>(1) 緊急審査の実施</li><li>(2) 審査の判定及び通知</li></ul></li><li>10 議事要旨等の保存及び公表<ul style="list-style-type: none"><li>(1) 議事要旨等の保存</li><li>(2) 議事要旨等の公表</li></ul></li><li>11 委員の守秘義務</li><li>12 委員会委員名簿</li><li>13 その他</li></ul>	

③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回
----------------	------

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2)利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
---------------------------------------	--

② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
----------------------	--

・ 規定の主な内容

香川大学医学部に、臨床研究利益相反委員会を置き、委員会は、臨床研究に係る利益相反審査自己申告書により、利益相反のマネジメントを行う。自己申告書により利益相反が明らかな場合、委員会は、自己申告書に添付された研究計画書等に照らし合わせて適正な臨床研究が実施可能かどうかについて審議し、当事者への助言・指導・勧告等を行う。なお、審議に際し、関係する各倫理審査委員会の意見を聴取することができる。また、必要に応じて更なる情報収集、調査及びフォローアップも行うこととしている。

③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年10回 ※定期開催ではなく、利益相反審査自己申告書により利益相反が明らかな場合にのみ随時開催することとしている。
---------------------------------------	--

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3)臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年6回
-----------------------	-----

・ 研修の主な内容

研究者等の臨床研究に関する倫理その他臨床研究の実施に必要な知識の向上を目的として、平成29年4月、平成29年7月、平成29年9月、平成30年1月、平成30年度3月に医学部倫理委員会教育訓練講習会を実施した。また、平成29年11月には、研究者等のヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理その他ヒトゲノム・遺伝子解析研究の実施に必要な知識の向上を目的とするヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査委員会教育訓練講習会を実施した。

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

下記の研修統括者を代表とする指導医の適切な指導の下、各専門領域の高度医療に関する研修指針に基づく体系的な指導を行うとともに、多職種からなる定期的なカンファレンス、医療安全・感染制御及び医療倫理等の講習会等の参加機会を確保し、チーム医療や安全管理等の実践教育を行っている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	50.0人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
村尾 孝児	内分泌代謝内科	教授	28年	
門脇 則光	血液内科	教授	32年	
土橋 浩章	膠原病・リウマチ内科	准教授	26年	
石井 知也	呼吸器内科	講師	21年	
南野 哲男	循環器内科 抗加齢血管内科	教授	30年	
祖父江 理	腎臓内科	講師	14年	
正木 勉	消化器内科	教授	28年	
出口 一志	脳神経内科	准教授	32年	
舩形 尚	総合内科	教授	32年	
辻 晃仁	腫瘍内科	教授	27年	
窪田 泰夫	皮膚科	教授	39年	
中村 祐	精神科神経科	教授	32年	
日下 隆	小児科	教授	27年	
秦 利之	周産期科女性診療科	教授	38年	
堀井 泰浩	心臓血管外科	教授	30年	



鈴木 康之	消化器外科	教授	35年
横見瀬 裕保	呼吸器外科	教授	37年
紺谷 桂一	乳腺内分泌外科	准教授	35年
下野 隆一	小児外科	准教授	30年
山本 哲司	整形外科	教授	35年
杉元 幹史	泌尿器・副腎・腎移植外科	教授	30年
田宮 隆	脳神経外科	教授	37年
鈴間 潔	眼科	教授	25年
星川 広史	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	28年
西山 佳宏	放射線診断科	教授	28年
柴田 徹	放射線治療科	教授	30年
白神 豪太郎	麻酔・ペインクリニック科	教授	34年
永竿 智久	形成外科・美容外科	教授	28年
羽場 礼次	病理診断科	准教授	28年
加地 良雄	リハビリテーション科	講師	24年
三宅 実	歯・顎・口腔外科	教授	31年

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

エキスパート研修 看護職員を対象とし、緩和ケア、がん性疼痛看護、糖尿病看護、新生児集中ケア、感染管理、手術看護、集中ケア、摂食・嚥下障害看護、認知症看護、乳がん看護、脳卒中リハビリテーション看護、皮膚排尿ケア(WOC)、慢性心不全看護の専門分野におけるエキスパートの育成を目的とする。

・研修の期間・実施回数

年 40 回程度

・研修の参加人数（延べ数）

平成 29 年度 917 名（院外従事者含む）

・研修の主な内容

病棟にて薬剤師が主に看護職員を対象に医薬品の適正使用について指導を行う

・研修の期間・実施回数

適宜 年数回

・研修の参加人数

各病棟 5～10 名程度

・研修の主な内容

臨床検査技師を対象とする勉強会

・研修の期間・実施回数

週 1 回

・研修の参加人数

20～25 名

・研修の主な内容

診療放射線技師を対象とする放射線部勉強会

・研修の期間・実施回数

週 1 回

・研修の参加人数

約30名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

看護補助者研修

・研修の期間・実施回数

9回(4～6月) 延時間 660分

・研修の参加人数(延べ数)

120名

・研修の主な内容

病棟にて薬剤師が主に看護職員を対象に麻薬・向精神薬・ハイリスク薬の管理について指導を行う

・研修の期間・実施回数

適宜 年数回

・研修の参加人数

各病棟 5～10名程度

・研修の主な内容

放射線部に所属する全職種責任者による放射線部安全運営会議

・研修の期間・実施回数

月1回

・研修の参加人数

約10名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

専門看護師、認定看護師による公開講座

リンパ浮腫ケア、急性・重症患者看護、感染管理、がん看護

・研修の期間・実施回数

4回(6～11月) 延時間 870分

・研修の参加人数(延べ数)

58名

・研修の主な内容

抗がん剤レジメンの内容・検査値に関する勉強会

・研修の期間・実施回数

適宜 年数回

・研修の参加人数

各医療機関(薬局等) 2～3名

・研修の主な内容

MRIの検査技術について

・研修の期間・実施回数

1ヶ月・1回

・研修の参加人数

約1名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

## (様式第5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
管理責任者氏名	病院長 横見瀬 裕保	
管理担当者氏名	総務課長 加賀宇 隆	医事課長 吉野 紀章
	薬剤部長 芳地 一	放射線部長 西山 佳宏

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	医学部医事課
		各科診療日誌	医学部医事課
		処方せん	薬剤部
		手術記録	医療情報部
		看護記録	医療情報部
		検査所見記録	検査部、病理部
		エックス線写真	放射線部
		紹介状	医学部医事課
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医療情報部
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	医学部総務課
		高度の医療の提供の実績	医学部医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医学部総務課
		高度の医療の研修の実績	医学部医事課
		閲覧実績	医学部医事課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医学部医事課
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医学部医事課 薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医学部医事課 医療安全管理部

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部 薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部 薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部 薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部 薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部 ME機器管理センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部 ME機器管理センター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全管理部 ME機器管理センター
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部 ME機器管理センター

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全管理部 薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	医学部総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医学部医事課 地域連携室 医療安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医学部総務課
		職員研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者が有する権限に関する状況	医学部総務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務グループ		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務グループ		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	医学部事務部長 白川 博章	
閲覧担当者氏名	医事課長 吉野 紀章	
閲覧の求めに応じる場所	管理棟1階情報公開室	
閲覧の手続の概要 閲覧日の2週間前までに所定の申込書により申し込み、閲覧承諾書により申請者に通知される。 閲覧には担当者が立ち会い、諸記録の貸し出し及びコピーは行えない。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。



規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	○有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容：別紙①のとおり</li> </ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設置の有無（○有・無）</li> <li>・ 開催状況：年 12回</li> <li>・ 活動の主な内容：             <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 安全管理のための指針の整備及び情報収集に関する事。</li> <li>2. 安全管理のための医療事故等の院内報告制度の整備に関する事。</li> <li>3. 安全管理に関する教育及び研修に関する事。</li> <li>4. 医療事故の防止及び対策に関する事。</li> <li>5. 安全対策マニュアルの実施状況の検証に関する事。</li> <li>6. 医療事故発生時の対応方法の整備(事故調査を含む。)に関する事。</li> <li>7. 医事問題に係る対策に関する事。</li> <li>8. 分析されたインシデントレポートの情報を、速やかに職員に周知及び実行させる事。</li> <li>9. その他医療事故を含む安全管理に関する事。</li> </ol> </li> </ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 39回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容（すべて）：別紙②のとおり</li> </ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備（○有・無）</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：             <ol style="list-style-type: none"> <li>1. インシデントレポートの収集・分析：毎日レポートを確認後、現場へ事実確認を行う。重要事例については現場にイベントレビューを記載依頼し、その後現場と共に分析を行う。レベル3b以上のインシデントを含む重要事例は、医療安全管理部長・病院長へ報告する。</li> <li>2. 効果的な安全対策の立案：現場と共に行った分析の結果、立案した安全対策を医療安全管理部員会議で審議する。</li> <li>3. 安全対策を現場にフィードバックし、その後、現場巡視し実施状況を確認し評価する。（PDCAサイクルを回す）</li> </ol> </li> </ul>	

4. 全死亡退院事例を検証し、詳細な検討が必要であると認めた事例には当該科へ報告書の提出を依頼し、医療安全管理部員会議・医療安全管理委員会で審議する。
5. 安全管理の委員会の運営：医療安全管理部員会議・医療安全管理委員会・リスクマネジャー会議の運営（資料作り・関係部署との調整など）
6. 職員研修の企画・運営：安全研修の企画運営と採用者・異動者に対する初期安全研修の実施、発生したインシデントに対する教育指導として研修を企画・運営。
7. Safety ニュース発行（毎月）：その月のトピックスを掲載し職員に注意喚起している。
8. 安全対策マニュアル（指針を含む）の見直し（年1回）：最新の医療水準に基づいて内容の見直しを毎年実施している。（RM 全員と共に行っている。）
9. 医療安全に関する患者からの相談対応。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>指針の主な内容：別紙③のとおり</li> </ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12回
<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> <li>院内感染の調査、予防及び防止に関する事。</li> <li>感染予防の実施、監視及び指導に関する事。</li> <li>感染症発生時の措置に関する事。</li> <li>院内職員の教育及び啓蒙に関する事。</li> <li>消毒剤の使用に関する事。</li> <li>HIV感染及びAIDSに係る職員の教育・啓蒙に関する事。</li> <li>HIV・AIDS診療に従事する人材の育成に関する事。</li> <li>HIV・AIDS診療に係る県内各拠点病院との連携の実施に関する事。</li> <li>その他感染予防に関する事。</li> </ol> </li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 48回
<ul style="list-style-type: none"> <li>研修の内容（すべて）：別紙④のとおり</li> </ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>病院における発生状況の報告等の整備 ( (有)・無 )</li> <li>その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>感染対策室会議、感染制御委員会で、MRSA等の耐性菌検出状況と共に、感染予防策の実施状況及び、感染拡大防止を図るための課題の検討・報告を行っている。室員会議・委員会における報告・決定事項は、職種横断的な構成員により各部署へ周知される。</li> <li>耐性菌検出時や問題となる感染症発生時には、ICTが現場に出向き、適切な対策が実施できているかを確認し、指導を行っている。また、ICTによる感染症ラウンド時においても、現場の感染対策の実施状況の評価を行っている。</li> <li>アウトブレイク発生時や重大な感染事例発生時には、ICTで対策を検討し、ICT、リンクドクター、リンクナースが協働し対応にあたる。病院長、感染制御委員会、各関係会議等へ報告は適宜行う。</li> <li>院内感染予防マニュアルは、適宜改訂を行っており、電子カルテから閲覧できるよう整備している。</li> </ul> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年2回+採用時+適宜
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容： 医薬品の安全使用を目的とし、各病棟職員または病院職員全体を対象とした研修を行っている。</li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順書の作成 (有)・無 )</li> <li>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医薬品の採用と購入</li> <li>2. 医薬品の管理</li> <li>3. 投薬指示と調剤</li> <li>4. 患者に対する服薬指導</li> <li>5. 医薬品の安全使用に係る情報の取り扱い(収集・提供)</li> <li>6. 他施設との連携の各業務について適正に実施している。</li> </ol> </li> </ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有)・無 )</li> <li>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)： 小児科より申請のあったジドブジン(AZT)の出生児への予防的投与。</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬剤部ニュース(月1回)を全診療科・部に配布している。</li> <li>2. 急を要する連絡は文書と院内Webで通知している。</li> <li>3. 薬事委員会で院内採用薬の見直しを行っている。</li> <li>4. 院内での副作用発生事例については情報を収集し、PMDAおよび当該医薬品メーカーへ報告を行っている。</li> <li>5. 薬事委員会(医薬品安全管理に関する委員会)を設置、年4回開催している。</li> </ol> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 約150回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容：            特定保守管理医療器（人工心肺装置及び補助循環装置・人工呼吸器・血液浄化装置・除細動器・閉鎖式保育器）を中心に関連する部署、職員等を対象に新規導入の医療機器や使用機器の研修計画を年度毎に立て計画的に実施している。内容は使用上における使用方法や注意事項・運用方法など現場と相談し行っている。</li> </ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る計画の策定 (○有・無)</li> <li>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：            機種別に保守点検の周期を設け、定期的に点検を実施し、記録を保存している。            業務委託による保守点検においては実施状況等の記録を保存し、管理状況を把握している。</li> </ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (○有・無)</li> <li>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：            カテーテル治療における止血及び動脈塞栓術にヒストアクリルを使用。</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：            院内ニュースとして「ME機器管理センターからのお知らせ」を定期的に発行し、各病棟、各部署に配布周知している。            医療機器に関わるインシデントや運用について必要に応じてリスクマネージャー会議で協議し周知徹底を行っている。            また、対象部署が限局される事項の内容やPMDA（医療機器）回収情報など、その都度通知文を回覧し周知徹底している。            院内ネットワークK-MINDにてマニュアル、添付文書、ニュース、お知らせを掲載している。</li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	(有)・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括させる医療安全管理責任者を配置し、統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有)（6名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>1回/月、薬剤部ニュース、1回/3ヶ月、DI ニュースを発行し、各診療科・各部署に配布して記名により周知状況を確認している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>未承認薬剤は未承認新規医薬品等評価部門での審査を必須としている。禁忌薬剤は系統的にチェックをかけて注意・警告している。禁忌病名は1回/月 薬品名と病名を抽出し、表にして各診療科・各部署に配布し記名により周知状況を確認している。</p> <p>・担当者の指名の有無 (有)・無</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ) (所属： ， 職種 )</p> <p>(所属： ， 職種 ) (所属： ， 職種 )</p> <p>(所属： ， 職種 ) (所属： ， 職種 )</p> <p>(所属： ， 職種 ) (所属： ， 職種 )</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	(有)・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有)・(無) ※マニュアルで代用 )</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：2016年9月に作成したインフォームド・コンセントに関する規定（マニュアル）において、説明内容・説明方法を新しく設定し、2016年11月の全職員対象の研修会において周知した。同時に、規定に定めた雛形に沿った説明・同意文書の作成を行うように指導した。その結果、2018年5月までに、雛形に沿った495個の説明・同意文書が提出され、規定に定めた事項が遵守されてい</p>	

ることを確認した。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 診療録等の記載内容については定期的に監査を行い、不十分な事例が認められる場合は当該診療科に通知し、適切な診療録管理が行われるよう指導している。	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
・所属職員：専従（5）名、専任（3）名、兼任（22）名 うち医師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（9）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（1）名 うち看護師：専従（3）名、専任（0）名、兼任（3）名 (注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること ・活動の主な内容： ①病院長の下に組織横断的に院内の安全管理を担い、医療安全管理委員会の審議事項に関して、調査、資料作成等を行うとともに、医療安全管理委員会の審議結果等に基づく安全管理を実施する。 ②安全管理委員会に対して安全管理に関する提言を行う。 ③医療安全の確保に資する診療の状況を把握する。 ④職員の医療安全に関する意識向上の状況確認を行う。 モニタリング具体例 ・インシデント分析 ・死亡退院事例検証（粗死亡率、真死亡率、術後10日以内死亡率） ・院内急変事例分析（コードブルー、ショックコール、RRS件数） ・転倒転落発生率 ・転棟転落（有害事象発生率、3b、骨折） ・CV穿刺に関する有害事象発生率 ・再手術（24時間以内） ・患者誤認発生率、発生数	
※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。	

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（2件）、及び許可件数（2件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
  - ◎高難度新規医療技術の提供の申請内容を確認するとともに、評価委員会に対して、その適否、実施を認める場合の条件等について意見を求める。
  - ◎評価委員会の意見を踏まえ、その適否等について決定し、申請を行った診療科等の長に対しその結果を通知する。
  - ◎高難度新規医療技術が適正な手続に基づいて提供されていたかどうかに関し、定期的に、及び術後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容を確認する。
  - ◎高難度新規医療技術が適切な手続に基づいて提供されていたかどうかに関し、申請を行った診療科等の遵守状況を確認する。
  - ◎高難度新規医療技術の提供の適否等について決定した時及び申請を行った診療科等の遵守状況を確認した時に、その内容を病院長に報告する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（2件）、及び許可件数（2件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
  - ◎未承認新規医薬品等の申請内容を確認するとともに、評価委員会に対して、その適否及び使用条件等について意見を求める。
  - ◎評価委員会の意見を踏まえ、その適否及び使用条件等について決定し、申請を行った診療科等の長に対しその結果を通知する。
  - ◎未承認新規医薬品等が適正な手続に基づいて提供されていたかどうかに関し、定期的に、及び



術後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容を確認する。

◎未承認新規医薬品が適切な手続きに基づいて提供されていたかどうかに関し、申請を行った診療科等の遵守状況を確認する。

◎未承認新規医薬品の使用の適否及び使用条件等について決定した時及び申請を行った診療科等の遵守状況を確認した時に、その内容を病院長に報告する。

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  有 ・ 無 )

・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (  有 ・ 無 )

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：全例報告

・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 206 件

・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

1. 安全管理のための指針の整備及び情報収集に関すること。
2. 安全管理のための医療事故等の院内報告制度の整備に関すること。
3. 安全管理に関する教育及び研修に関すること。
4. 医療事故の防止及び対策に関すること。
5. 安全対策マニュアルの実施状況の検証に関すること。
6. 医療事故発生時の対応方法の整備(事故調査を含む。)に関すること。
7. 医事問題に係る対策に関すること。
8. 分析されたインシデントレポートの情報を、速やかに職員に周知及び実行させること。
9. その他医療事故を含む安全管理に関すること。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・ 他の特定機能病院等への立入り (  有 (病院名：長崎大学医学部附属病院) ・ 無)

・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ (  有 (病院名：山梨大学医学部附属病院) ・ 無)

・ 技術的助言の実施状況 適応外医薬品使用に係る審査体制の整備

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・ 体制の確保状況

安全管理のための基本方針として、「患者さんからの医療安全管理に関する相談に対して誠実に対応する。」と掲げ、医療相談窓口を設け、患者からの相談に対応している。

⑫ 職員研修の実施状況

- ・ 研修の実施状況  
別紙⑤のとおり

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

- ・ 研修の実施状況  
特定機能病院管理者研修に参加した。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

# 1. 安全管理のための基本方針

本院は、患者さんが安心して医療を受けられる環境を整え、各医療現場において安全確実な医療を実践・教育する。医療事故の絶無を期して、現場における責任体制を明確にし、医療事故防止のための安全管理体制を病院全体で取り組み確立する。

## 1) 安全管理のための委員会

安全管理及び医療事故の防止・対策について審議するため、医療安全管理委員会を置く。

## 2) 医療安全管理責任者

医療安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括するため、医療安全管理責任者を置く。

## 3) 医療安全管理部

医療安全管理委員会が講じた安全対策をリスクマネジャーを通じて速やかに実践徹底させると共に、医療安全管理委員会に安全対策を提言する。

## 4) 専任リスクマネジャー

本院全体の医療事故防止及び安全管理の任に当たらせるため、医療安全管理部に専任リスクマネジャーを置く。

## 5) リスクマネジャー

医療安全管理委員会及び医療安全管理部が講じた安全対策等の情報を、各医療現場に浸透させるため、また、各医療現場で発生した医療事故及びインシデントの報告及び医療事故防止に関する問題点等を医療安全管理部及び医療安全管理委員会の審議に反映させるため、各科(部)等にリスクマネジャーを置く。

## 6) 安全管理のための職員教育及び研修

医療事故防止手法などの安全管理に関する教育を行うと共に、職員研修を開催する。

## 7) 医療事故発生時の対応

医療事故に関する情報は、速やかに、病院長及び医療安全管理部長に連絡し、報告書を提出する。

医療安全管理委員会は報告書に基づいて、内容・実状を把握し、対応・改善を協議する。

## 8) 安全対策マニュアル

病院関係職員の医療事故防止のため、「安全対策マニュアル」を作成し、周知徹底を図る。なお、状況等により随時見直しを行うものとする。

## 9) インフォームド・コンセントに係る責任者

インフォームド・コンセントを適切に実施するための手順の作成、手順の遵守状況の確認、指導・研修、その他適切な実施に関するを行うため、インフォームド・コンセントに係る責任者を置く。

## 10) 診療録管理責任者

診療録その他の診療に関する記録の適切な管理を行うために診療録管理責任者を置く。

## 11) 医薬品安全管理責任者

本院全体の医薬品の安全使用の任に当たらせるため、薬剤部に医薬品安全管理責任者を置く。

## 12) 医療機器安全管理責任者

本院全体の医療機器の安全使用の任に当たらせるため、ME機器管理センターに医療機器安全管理責任者を置く。

13) 診療情報の共有

医療従事者からの十分な説明に基づいて、患者自身が疾病や診療内容について理解・納得・同意が得られるように情報を共有する。患者さんと医療従事者との間で患者さんの診療情報を共有し、医療上の意思決定や治療効果の向上が図ることができるようにする。また医療従事者間でも患者の診療情報を共有し、安全で質の高い医療の実現を目指すものとする。

14) 患者相談

患者さんからの医療安全管理に関する相談に対して、誠実に対応する。

15) その他

安全管理のための方策を検討し、医療事故防止に努める。

本指針は、患者さん及びその家族等から閲覧の求めがあった場合には、これに応じるものとする。

# 平成29年度安全管理のための職員研修実施報告

## 別紙②

	実施日	対象職員	参加人数	時間	内容
1	3月27日	新採用研修医	44名	140分	講義 「当院の患者安全管理体制について、インシデントレポートの書き方と事例分析、およびPDA操作について」 講師 医療安全管理部 田宮医療安全管理部長・舛形GRM・村上GRM・朝倉GRM・松本GRM
2	3月29日	新採用研修医	44名	120分	講義 「CV(中心静脈カテーテル)挿入施行医認定制度導入について」 「超音波ガイド下中心静脈穿刺 コツと落とし穴」 「安全で確実なCVC挿入のために」 実習 「シミュレーターを用いた穿刺実習」 講師 医療安全管理部 舛形GRM・村上GRM 手術部 古泉真理 助教 地域医療教育支援センター 四宮あや 助教 日本コヴィディエン株式会社 小川勝巳
3	4月4日	新採用者 (看護師)	91名	60分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
4	4月13日	新採用者 異動者 (栄養士・事務補佐員・臨床検査技師・診療放射線技師・理学療法士・言語聴覚士・薬剤師・事務職員・外注職員ニチイ)	17名 4名	60分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
5	4月18日	リスクマネジャー	7名	15分	講義 「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
6	4月21日	新採用者 (医師)	10名	15分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
7	4月21日	新採用者 (看護補助者)	2名	45分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
8	5月1日	復帰者(看護師)	10名	60分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
9	5月11日	新採用者 (医師)	22名	45分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
10	5月12日	新採用者 (事務補佐員・外注職員 マンパワー・技術補佐員)	5名	60分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
11	5月23日	全職員	820名 (823名)	60分	講義 「特定機能病院承認要件と安全管理体制について」 「平成28年度 インシデント分析結果報告」 講師 田宮医療安全管理部長・舛形専任RM・松本専任RM・村上専任RM
	5月29,30,31日 6月1,2日	全職員 (ビデオ上映会)	420名 (428名)	60分	
12	6月5日	復帰者(看護師)	1名	60分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
13	6月9日	リスクマネジャー	1名	15分	講義 「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
14	6月20日	リスクマネジャー	1名	15分	講義 「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
15	7月10日	新採用者 (看護補助者)	2名	60分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
16	7月18日	リスクマネジャー	1名	15分	講義 「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
17	7月18日	全職員(事務系職員除く)	687名 (694名)	60分	講義 <医薬品> 「経口避妊薬服用の注意点～OC・LEPガイドラインを中心に～」 <医療機器> 「AEDの普及と使用方法」 「ヒヤリハット・失敗事例から学ぶ導尿と尿道カテーテル留置方法」 講師 <医薬品> 総合周産期母子医療センター 准教授 金西 賢治 <医療機器> フクダ電子四国販売㈱ 納田 和也 泌尿器・副腎・腎移植外科 助教 菅森 寛行
	7月25,27,28日	全職員(事務系職員除く) (ビデオ上映会)	369名 (377名)	60分	

	実施日	対象職員	参加人数	時間	内容
18	新採用者 初期安全研修	8月1日 復帰者(看護師)	3名	90分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
19	新採用者 初期安全研修	8月3日 新採用者 (看護補助者)	1名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
20	新採用者 初期安全研修	8月10日 新採用者 育児復帰者 (栄養士・事務補佐員・技 術補佐員・臨床検査技師・ 作業療法士・調理師)	6名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
21	新採用者 初期安全研修	8月10日 新採用者 (医師)	3名	30分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
22	新採用者 初期安全研修	8月21日 新採用者 (医師)	12名	30分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
23	新採用者 初期安全研修	9月1日 復帰者(看護師)	1名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
24	安全管理研修(講義)	9月5日 全職員	717名 (722名)	60分	講義「医療事故調査で“私”が学んだこと -大学病院の期待すること-」 講師 奈良県立病院機構 奈良県総合医療センター 総長 上田 裕一
		9月11, 13,14日 全職員 (ビデオ上映会)	418名 (428名)	60分	
25	新採用者 初期安全研修	9月7日 新採用者 (事務補佐員)	1名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
26	新リスクマネジャー研修	10月17日 リスクマネジャー	1名	15分	講義「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
27	新採用者 初期安全研修	11月13, 14,16日 新採用者 (医師)	8名	30分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
28	新採用者 初期安全研修	11月16日 新採用者 (事務補佐員、外注職員ニ チイ、派遣、技術補佐員、技 能補佐員)	8名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
29	安全管理(医療ガス)研 修(講義)	11月13,29 日 医師、看護師、放射線技師	469名	60分	講義「医療ガス事故を起こさないための方策等について」 講師 日本医療ガス協会四国地区本部 講師 高松帝酸(株)多度津事業所 主事 山下基光
30	安全管理研修(講義)	11月28日 全職員(事務系職員・調理 師・看護補助者除く)	641名 (643名)	60分	講義 <放射線> 「MR検査における安全管理 ～『知らない』では済まされない～」 <医療機器> 「輸液ポンプとシリンジポンプに関する取扱上の注意点」 <薬剤部> 「麻薬の適正管理について」 講師 <放射線> 放射線部 副部長 木村 成秀 <医療機器> ME機器管理センター 中山 智仁 <薬剤部> 薬剤部麻薬室 磯部 秀江
		12月5,14 日 全職員(事務系職員・調理 師・看護補助者除く) (ビデオ上映会)	256名 (261名)	60分	
31	新採用者 初期安全研修	12月4日 復帰者(看護師)	2名	55分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
32	新採用者 初期安全研修	12月14日 新採用者 (事務補佐員/外注職員ニ チイ)	1名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
33	新リスクマネジャー研修	12月19日 リスクマネジャー	1名	15分	講義「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
34	安全管理研修(講義)	12月19日 全職員	661名 (663名)	60分	講義「求められる感染制御 ～感染対策に必要な3つのこと～」 講師 大阪市立大学大学院医学研究科 臨床感染制御学教授 大阪市立大学医学部附属病院 感染制御部 部長 掛屋 弘
		12月25日 1月10日 全職員 (ビデオ上映会)	339名 (344名)	60分	
35	新採用者 初期安全研修	1月11日 復帰者(看護師)	2名	70分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
36	新リスクマネジャー研修	1月23日 リスクマネジャー	1名	15分	講義「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM

	実施日	対象職員	参加人数	時間	内容
37	2月5日	復帰者(看護師)	1名	40分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM
38	2月6日	新採用者 (事務補佐員・技術補佐員)	4名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM
39	2月20日	全職員	693名 (697名)	60分	講義「院内暴力の対応と抑止 ～傷害罪・暴行罪等の刑法典上の関連で～」
	2月28日 3月1,2日	全職員 (ビデオ上映会)	391名 (398名)	60分	講師 杏林大学総合政策学部 特任教授 大山 徹

## 感染対策のための指針

香川大学医学部附属病院は、病院の理念に基づき、感染防止および感染制御の対策に取り組むことで、患者および病院職員に安全で快適な医療環境を提供する。  
そのための基本的な考え方を以下に定める。

### 1. 感染対策に関する基本的な考え方

病院感染の発生を未然に防ぎ、感染症発生時に拡大を防止するためには、その原因を速やかに特定し、早期に制圧することが重要である。そのため、感染防止対策を職員全員が把握し、病院の理念に則った医療が提供できるよう取り組む。

### 2. 感染対策の推進のために必要な基本方針

職員は、院内感染予防マニュアルに沿って、手洗いの徹底、マスク、手袋等の着用など、常に感染予防策の遵守に努める。

職員は、自らが感染源とならないよう、定期健康診断を受診し、健康管理に努める。  
院内感染予防マニュアルは、定期的に見直しを行い、病院職員へ周知徹底を図る。

### 3. 感染対策のための委員会等の組織に関する基本的事項

香川大学医学部附属病院感染制御委員会規定に基づき、感染制御委員会を設置し、病院感染の調査、感染予防の実施、発生時の措置等に関する審議・決定を行う。

病院感染等の発生防止に関する業務を迅速かつ機能的に実行するために、感染対策室を設置する。

### 4. 感染対策のための職員研修に関する基本方針

感染防止対策の基本的な考え方および防止対策に対する意識の向上を図るために、全病院職員対象の研修会を年2回開催するほか、必要に応じて随時開催する。研修の開催結果を記録し、保存する。

### 5. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針

耐性菌および市中感染症等の院内発生に伴う感染拡大を防止するため、感染症発生状況を感染制御委員会および感染対策室を通じて、病院職員に定期的に通知する。また、感染制御システムにより、随時情報提供を行う。

### 6. 病院感染発生時の対応に関する基本方針

病院感染が発生した部署の病院職員は、直ちに感染対策室へ報告する。感染対策室は、状況および対応を病院長ならびに感染制御委員会に報告する。感染対策室および発生部署の病院職員は、速やかに発生の原因を究明し、改善策を立案し実施する。

感染対策室は、発生状況および改善策の実施結果について感染制御委員会、電子メールおよび紙媒体を通じて全職員に速やかに周知する。

### 7. 患者等に対する本指針の閲覧に関する基本方針

本指針は、院内感染予防マニュアルおよびホームページに掲載する。



付 則

この指針は、平成 19 年 7 月 1 日より施行する。

平成 21 年 3 月 1 日より一部改定、施行する。

平成 23 年 7 月 1 日より一部改定、施行する。

平成 25 年 12 月 1 日より一部改定、施行する。

## 平成29年度 感染対策全体職員研修

	内容	実施日	対象職員	参加人数	時間
1	当院における薬剤耐性菌検出状況の推移と院内感染対策	H29.5.23	全職員	820	60分
	感染制御認定臨床微生物検査技師 根ヶ山 清 感染管理認定看護師 間嶋 由美子				
		H29.5.29~31 H6.1~2	全職員 (ビデオ上映会)	420	60分
			全職員 (e-learning)	112	60分
2	求められる感染制御 ～感染対策に必要な3つのこと～	H29.12.19	全職員	661	60分
	大阪市立大学大学院医学研究科 臨床感染制御学教授 大阪市立大学医学部附属病院 感染制御部 部長 掛屋 弘				
		H29.12.25 H30.1.10	全職員 (ビデオ上映会)	339	60分
			全職員 (e-learning)	55	60分

## 平成29年度 感染対策採用者・異動者・復帰者職員研修(医師・コメディカル対象)

No	件名	対象者	人数	実施日	場所
1	平成28年度卒後臨床研修オリエンテーション 標準感染予防に関する講義 手洗い実習等の実習	新規採用 研修医	44	H29.3.28	アドバンスルーム1
				H29.3.29	
				H29.3.30	
2	感染対策のための職員研修 病院感染対策・標準予防策・廃棄物処理・職業感染防止	4.1事務コメディカル 採用者・異動者	21	H29.3.30	臨床講義棟2F
3	感染対策のための職員研修 病院感染対策・標準予防策・廃棄物処理・職業感染防止	4.1医師 採用者・異動者	10	H29.4.21	講義実習棟 大C講義室
4	感染対策のための職員研修 病院感染対策・標準予防策・廃棄物処理・職業感染防止	4.1医師 採用者・異動者	22	H29.5.11	西1Fカンファレンス スルーム
5	感染対策のための職員研修 病院感染対策・標準予防策・廃棄物処理・職業感染防止	5.1事務コメディカル 採用者・異動者	5	H29.5.12	医療安全管理部・ 感染制御部
6	感染対策のための職員研修 病院感染対策・標準予防策・廃棄物処理・職業感染防止	7.1事務コメディカル 採用者・異動者	6	H29.8.10	医療安全管理部・ 感染制御部
7	感染対策のための職員研修 病院感染対策・標準予防策・廃棄物処理・職業感染防止	4.1～7.1医師 採用者・異動者	15	H29.8.10 H29.8.21	臨床講義棟1F
8	感染対策のための職員研修 病院感染対策・標準予防策・廃棄物処理・職業感染防止	9.1事務コメディカル 採用者・異動者	1	H29.9.7	医療安全管理部・ 感染制御部
9	感染対策のための職員研修 病院感染対策・標準予防策・廃棄物処理・職業感染防止	4.1～11.1医師 採用者・異動者	8	H29.11.13 ～11.16	管理棟4F会議室
10	感染対策のための職員研修 病院感染対策・標準予防策・廃棄物処理・職業感染防止	10.1～11.2事務コ メディカル 採用者・異動者	8	H29.11.16	スキルラボタ リ-1F会議室
11	感染対策のための職員研修 病院感染対策・標準予防策・廃棄物処理・職業感染防止	11.25事務コメディカ ル 採用者・異動者	1	H29.12.14	医療安全管理部・ 感染制御部
12	感染対策のための職員研修 病院感染対策・標準予防策・廃棄物処理・職業感染防止	1.10～2.1事務コメ ディカル 採用者・異動者	4	H30.2.6	医療安全管理部・ 感染制御部

## 平成29年度 感染対策採用者・異動者・復帰者職員研修(看護師対象)

No	件名	対象者	人数	実施日	場所
1	平成29年度新採用看護職員オリエンテーション 院内感染対策のための基礎知識	4・1採用看護職員	91	H29.4.4	管理棟4F会議室
2	平成29年度新採用看護職員オリエンテーション 技術演習	4・1採用看護職員	2	H29.4.10	管理棟4F会議室
3	感染対策のための職員採用等研修 病院感染対策・標準予防策・廃棄物処理・職業感染防止	5・1育休復帰看護師	10	H29.5.1	管理棟4F会議室
4	感染対策のための職員採用等研修 病院感染対策・標準予防策・廃棄物処理・職業感染防止	6・1採用看護職員	1	H29.6.5	管理棟4F会議室
5	感染対策のための職員採用等研修 病院感染対策・標準予防策・廃棄物処理・職業感染防止	7・1採用看護職員	2	H29.7.5	管理棟4F会議室
6	感染対策のための職員採用等研修 病院感染対策・標準予防策・廃棄物処理・職業感染防止	8・1育休復帰者	3	H29.8.1	管理棟4F会議室
7	感染対策のための職員採用等研修 病院感染対策・標準予防策・廃棄物処理・職業感染防止	8・1採用看護補助者	1	H29.8.3	管理棟4F会議室
8	感染対策のための職員採用等研修 病院感染対策・標準予防策・廃棄物処理・職業感染防止	9・1育休復帰者	1	H29.9.4	管理棟4F会議室
9	感染対策のための職員採用等研修 病院感染対策・標準予防策・廃棄物処理・職業感染防止	育休復帰者	2	H29.12.4	管理棟4F会議室
10	感染対策のための職員採用等研修 病院感染対策・標準予防策・廃棄物処理・職業感染防止	育休復帰者	2	H30.1.11	管理棟4F会議室
11	感染対策のための職員採用等研修 病院感染対策・標準予防策・廃棄物処理・職業感染防止	育休復帰者	1	H30.2.5	管理棟4F会議室

## 平成29年度感染症カンファレンス 講師:横田恭子(香川県立中央病院)

	年月日	曜日	時間	場所	テーマ	参加者
第1回	H29・5・16	火	60分	スキルラボラトリー1F会議室	感染症診療の基本	16
第2回	H29・7・11	火	60分	スキルラボラトリー1F会議室	目で見える感染症 ～感染症心内膜炎からマラリアまで	8
第3回	H29・9・12	火	60分	スキルラボラトリー1F会議室	骨軟部組織感染症	12
第4回	H29・11・14	火	60分	スキルラボラトリー1F会議室	発熱をどうマネジメントするか ～外来・病棟において	6

## 平成29年度感染管理 エキスパート研修

	年月日	時間	テーマ	対象者	参加者
第1回	H29.5.25	60分	手指衛生からはじまる感染対策 —手指衛生を習慣化しよう!—	全病棟の看護師	68
第2回	H29.6.22	60分	ベッドサイドの感染対策 —日常業務での感染対策のポイントを 押さえよう!—	全病棟の看護師	54
第3回	H29.7.27	60分	細菌検査 —検体採取から培養検査まで—	全病棟の看護師	51
第4回	H29.9.28	60分	ポイントをばっちり押さえるカテーテル管 理 —自部署の管理方法を見直そう—	全病棟の看護師	48
第5回	H29.9.30	180分	成果に繋がる感染対策 手指衛生からはじまる感染対策 ベッドサイドの感染対策を見直そう	院外看護職員	9

## 平成29年度 その他研修

No	内容	対象者	人数	実施日	場所
1	放射線領域における感染対策	放射線技師(新採)	3	H29.4.6	放射線部
2	在宅ケアにおける感染予防策	訪問看護ステーションハートリス	10	H29.4.24	訪問看護ステーションハートリス
3	手洗い実習	三木高校	7	H29.5.24	スキルラボラトリー2F
4	手洗い実習	臨床栄養部	7	H29.5.26	スキルラボラトリー2F
5	静脈注射における感染予防策	看護部	25	H29.7.3	スキルラボラトリー2F
6	病院給食の衛生管理	臨床栄養部(実習生)	5	H29.7.4	スキルラボラトリー2F
7	院内感染防止対策	薬剤部(実習生)	8	H29.9.25	西1Fカンファレンスルーム
8	看護マネジメント学集中講座	看護学科学生		H29.6.2	看護学科
9	清掃業務に必要な感染対策の基本(第1回)	委託清掃業者	41	H29-10-31 11-1	スキルラボラトリー2F
10	院内感染防止対策	医学科学生		H29.5.31	大C
11	公開講座 「成果に繋がる感染対策」	院外施設職員	9	H29.9.30	スキルラボラトリー3F
12	病棟の手洗い	医学科学生	115	H29 11-22 11-24	臨床講義棟2F スキルラボラトリー2F
13	院内感染防止対策	薬剤部(実習生)	4	H30.1.30	西1Fカンファレンスルーム
14	清掃業務に必要な感染対策の基本(第2回)	委託清掃業者	37	H30 3-15 3-16	スキルラボラトリー2F

# 平成29年度安全管理のための職員研修実施報告

別紙⑤

	実施日	対象職員	参加人数	時間	内容
1	卒後臨床研修 オリエンテーション	3月27日 新採用研修医	44名	140分	講義 「当院の患者安全管理体制について、インシデントレポートの書き方と事例分析、およびPDA操作について」 講師 医療安全管理部 田宮医療安全管理部長・舛形GRM・村上GRM・朝倉GRM・松本GRM
2	卒後臨床研修 オリエンテーション	3月29日 新採用研修医	44名	120分	講義 「CV(中心静脈カテーテル)挿入施行医認定制度導入について」 「超音波ガイド下中心静脈穿刺 コツと落とし穴」 「安全で確実なCVC挿入のために」 実習 「シミュレーターを用いた穿刺実習」 講師 医療安全管理部 舛形GRM・村上GRM 手術部 古泉真理 助教 地域医療教育支援センター 四宮あや 助教 日本コヴィディエン株式会社 小川勝巳
3	新採用者 初期安全研修	4月4日 新採用者 (看護師)	91名	60分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
4	新採用者 初期安全研修	4月13日 新採用者 異動者 (栄養士・事務補佐員・臨床検査技師・診療放射線技師・理学療法士・言語聴覚士・薬剤師・事務職員・外注職員ニイ)	17名 4名	60分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
5	新リスクマネジャー研修	4月18日 リスクマネジャー	7名	15分	講義 「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
6	新採用者 初期安全研修	4月21日 新採用者 (医師)	10名	15分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
7	新採用者 初期安全研修	4月21日 新採用者 (看護補助者)	2名	45分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
8	新採用者 初期安全研修	5月1日 復帰者(看護師)	10名	60分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
9	新採用者 初期安全研修	5月11日 新採用者 (医師)	22名	45分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
10	新採用者 初期安全研修	5月12日 新採用者 (事務補佐員・外注職員 マンパワー・技術補佐員)	5名	60分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
11	安全管理研修(講義)	5月23日 全職員	820名 (823名)	60分	講義 「特定機能病院承認要件と安全管理体制について」 「平成28年度 インシデント分析結果報告」 講師 田宮医療安全管理部長・舛形専任RM・松本専任RM・村上専任RM
		5月 29,30,31 日,6月1,2 日	全職員 (ビデオ上映会)	420名 (428名)	60分
12	新採用者 初期安全研修	6月5日 復帰者(看護師)	1名	60分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
13	新リスクマネジャー研修	6月9日 リスクマネジャー	1名	15分	講義 「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
14	新リスクマネジャー研修	6月20日 リスクマネジャー	1名	15分	講義 「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
15	新採用者 初期安全研修	7月10日 新採用者 (看護補助者)	2名	60分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
16	新リスクマネジャー研修	7月18日 リスクマネジャー	1名	15分	講義 「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
17	安全管理研修(講義)	7月18日 全職員(事務系職員除く)	687名 (694名)	60分	講義 <医薬品> 「経口避妊薬服用の注意点～OC・LEPガイドラインを中心に～」 <医療機器> 「AEDの普及と使用方法」 「ヒヤリハット・失敗事例から学ぶ導尿と尿道カテーテル留置方法」 講師 <医薬品> 総合周産期母子医療センター 准教授 金西 賢治 <医療機器> フクダ電子四国販売㈱ 納田 和也 泌尿器・副腎・腎移植外科 助教 常森 寛行
		7月 25,27,28 日	全職員(事務系職員除く) (ビデオ上映会)	369名 (377名)	60分



	実施日	対象職員	参加人数	時間	内容
18	新採用者 初期安全研修	8月1日 復帰者(看護師)	3名	90分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
19	新採用者 初期安全研修	8月3日 新採用者 (看護補助者)	1名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
20	新採用者 初期安全研修	8月10日 新採用者 育児復帰者 (栄養士・事務補佐員・技 術補佐員・臨床検査技師・ 作業療法士・調理師)	6名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
21	新採用者 初期安全研修	8月10日 新採用者 (医師)	3名	30分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
22	新採用者 初期安全研修	8月21日 新採用者 (医師)	12名	30分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
23	新採用者 初期安全研修	9月1日 復帰者(看護師)	1名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
24	安全管理研修(講義)	9月5日 全職員	717名 (722名)	60分	講義「医療事故調査で“私”が学んだこと -大学病院の期待すること-」 講師 奈良県立病院機構 奈良県総合医療センター 総長 上田 裕一
		9月11, 13,14日 全職員 (ビデオ上映会)	418名 (428名)	60分	
25	新採用者 初期安全研修	9月7日 新採用者 (事務補佐員)	1名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
26	新リスクマネジャー研修	10月17日 リスクマネジャー	1名	15分	講義「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
27	新採用者 初期安全研修	11月13, 14,16日 新採用者 (医師)	8名	30分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
28	新採用者 初期安全研修	11月16日 新採用者 (事務補佐員、外注職員ニ チイ、派遣、技術補佐員、技 能補佐員)	8名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
29	安全管理(医療ガス)研 修(講義)	11月13,29 日 医師、看護師、放射線技師	469名	60分	講義「医療ガス事故を起こさないための方策等について」 講師 日本医療ガス協会四国地区本部 講師 高松帝酸(株)多度津事業所 主事 山下基光
30	安全管理研修(講義)	11月28日 全職員(事務系職員・調理 師・看護補助者除く)	641名 (643名)	60分	講義 <放射線> 「MR検査における安全管理 ～「知らない」では済まされない～」 <医療機器> 「輸液ポンプとシリンジポンプに関する取扱上の注意点」 <薬剤部> 「麻薬の適正管理について」 講師 <放射線> 放射線部 副部長 木村 成秀 <医療機器> ME機器管理センター 中山 智仁 <薬剤部> 薬剤部麻薬室 磯部 芳江
		12月5,14 日 全職員(事務系職員・調理 師・看護補助者除く) (ビデオ上映会)	256名 (261名)	60分	
31	新採用者 初期安全研修	12月4日 復帰者(看護師)	2名	55分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
32	新採用者 初期安全研修	12月14日 新採用者 (事務補佐員/外注職員ニ チイ)	1名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
33	新リスクマネジャー研修	12月19日 リスクマネジャー	1名	15分	講義「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
34	安全管理研修(講義)	12月19日 全職員	661名 (663名)	60分	講義「求められる感染制御 ～感染対策に必要な3つのこと～」 講師 大阪市立大学大学院医学研究科 臨床感染制御学教授 大阪市立大学医学部附属病院 感染制御部 部長 掛屋 弘
		12月25日 1月10日 全職員 (ビデオ上映会)	339名 (344名)	60分	
35	新採用者 初期安全研修	1月11日 復帰者(看護師)	2名	70分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
36	新リスクマネジャー研修	1月23日 リスクマネジャー	1名	15分	講義「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM

	実施日	対象職員	参加人数	時間	内容
37	2月5日	復帰者(看護師)	1名	40分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM
38	2月6日	新採用者 (事務補佐員・技術補佐員)	4名	60分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM
39	2月20日	全職員	693名 (697名)	60分	講義 「院内暴力の対応と抑止 ～傷害罪・暴行罪等の刑法典上の関連で～」
	2月28日 3月1,2日	全職員 (ビデオ上映会)	391名 (398名)	60分	講師 杏林大学総合政策学部 特任教授 大山 徹

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基準の主な内容 病院長選考が平成31年10月のため、基準については現在策定準備中</li> <li>・ 基準に係る内部規程の公表の有無（有・<input checked="" type="radio"/>）</li> <li>・ 公表の方法</li> </ul>
---

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・無			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（有・<input checked="" type="radio"/>）</li> <li>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（有・<input checked="" type="radio"/>）</li> <li>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（有・<input checked="" type="radio"/>）</li> <li>・ 公表の方法</li> </ul>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無



## 規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

### 管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法  
大学HP（[https://www.kagawa-u.ac.jp/somu/kisoku/reiki\\_taikei/r\\_taikei\\_16.html](https://www.kagawa-u.ac.jp/somu/kisoku/reiki_taikei/r_taikei_16.html)）
- ・ 規程の主な内容
  - ・ 病院規程、病院細則で、科長、医長、中央診療施設の長等人事を病院長が任命すると明記
  - ・ 会計職務権限要項で、附属病院の予算関係決裁者が病院長であることを明記
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
  - 副病院長（企画・診療担当）：企画・診療を担当する。
  - 副病院長（教育・研究担当）：教育・研究を担当する。
  - 副病院長（経営・評価担当）：経営・評価を担当する。
  - 副病院長（病院再開発・広報担当）：病院再開発・広報を担当する。
  - 副病院長（医療の質管理担当）：医療の質の管理を担当する。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

一般社団法人国立大学協会中国・四国地区支部及び国立大学法人広島大学が主催で、平成29年9月7日から9月8日の日程で開催した、「平成29年度中国・四国地区国立大学法人病院事務マネジメントセミナー」に5名が受講した。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	(有)・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全管理責任者、医療安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務の状況について病院長等から報告を求め、又は必要に応じ実地で確認を行う。</li> <li>2. 学長又は病院長に対し、必要に応じて、医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう求める。</li> <li>3. 上記の業務についての結果を公表する。</li> </ol> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 公表の方法：香川大学医学部附属病院のホームページへの掲載による公表</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
太田 吉夫	香川県立中央病院長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するため	有・(無)	1
森脇 正	森脇法律事務所長 ・弁護士		法律に関する識見を有するため	有・(無)	1
瓜生 幸子	がん患者会ネット ワーク香川 会長		医療を受ける者の代表者	有・(無)	2
真鍋 光輝	香川大学副学長		学長が必要と認めた者	(有)・無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを  
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

国立大学法人香川大学におけるコンプライアンスの推進に関する規則等を制定  
コンプライアンス推進のための活動方策・更新及び実施

・ 専門部署の設置の有無 (  有 ・ 無 )

・ 内部規程の整備の有無 (  有 ・ 無 )

・ 内部規程の公表の有無 (  有 ・ 無 )

・ 公表の方法

大学HP ( <https://www.kagawa-u.ac.jp/compliance/index.html> )

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況                      会議体は、学長、学長が指名する理事及び職員、大学の役員又は職員以外の者で大学に関し広くかつ高い識見を有する者のうちから、教育研究評議会の意見を聴いて学長が任命する者で構成された、香川大学経営協議会において、「予算の作成及び執行並びに決算に関する事項」や「組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項」等の大学法人の経営に関する重要事項を審議する。</li> <li>・ 会議体の実施状況（年5回）</li> <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="radio"/>有・無）（年5回）</li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）</li> <li>・ 公表の方法                      大学HP (<a href="https://www.kagawa-u.ac.jp/public/15525/proceedings_summary/council/#29">https://www.kagawa-u.ac.jp/public/15525/proceedings_summary/council/#29</a>)</li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：国立大学法人香川大学経営協議会			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
笈 善行	学長	○	<input checked="" type="radio"/> 有・無
山下 明昭	理事<教育担当>		<input checked="" type="radio"/> 有・無
片岡 郁雄	理事<研究・産官学連携・教員評価担当>		<input checked="" type="radio"/> 有・無
舟橋 徹	理事<企画・評価・広報担当>		<input checked="" type="radio"/> 有・無
真鍋 光輝	理事<総務・労務担当>		<input checked="" type="radio"/> 有・無
川池 秀文	理事<財務・施設担当>		<input checked="" type="radio"/> 有・無
金子 元久	筑波大学特命教授・東京大学名誉教授		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
神余 隆博	関西学院大学国連・外交統括センター長		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
田中 壮一郎	前(独)国立青少年教育振興機構理事長		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
千葉 昭	四国電力(株)取締役会長		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
西原 義一	香川県副知事		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
藤岡 実佐子	帝國製薬(株)代表取締役社長		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
渡邊 智樹	百十四銀行代表取締役会長		有・ <input checked="" type="radio"/> 無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。



規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 通報件数 (年〇件)</li><li>・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 周知の方法 大学 HP (<a href="https://www.kagawa-u.ac.jp/compliance/index.html">https://www.kagawa-u.ac.jp/compliance/index.html</a>)</li></ul>

氏名	委員長	職種	役職
横見瀬 裕保	○	医師	病院長
門脇 則光		医師	副病院長（企画・診療担当） 血液内科長 医療安全管理部長 高難度新規医療技術等評価部長
横井 英人		医師	副病院長（教育・研究担当） 診療情報管理室長 臨床研究支援センター長 臨床教育研修支援部長 臨床教育研修管理室長
星川 広史		医師	副病院長（経営・評価担当） 耳鼻咽喉科・頭頸部外科長
日下 隆		医師	副病院長（病院再開発・広報担当） 小児科長 遺伝子診療部長
豊嶋 克美		看護師	副病院長（医療の質管理担当） 看護部長 ワーク・ライフ・バランス支援室長
村尾 孝児		医師	内分泌代謝内科長 検査部長 糖尿病センター長 先端医療開発センター長
土橋 浩章		医師	膠原病・リウマチ内科長
石井 知也		医師	呼吸器内科長
南野 哲男		医師	循環器内科長 抗加齢血管内科長 心臓血管センター長
祖父江 理		医師	腎臓内科長
正木 勉		医師	消化器内科長 内視鏡診療部長 臨床栄養部長
出口 一志		医師	神経内科長
舩形 尚		医師	総合内科長 総合地域医療連携センター長
辻 晃仁		医師	腫瘍内科長 がんセンター長
窪田 泰夫		医師	皮膚科長 感染制御部長 感染対策室長
中村 祐		医師	精神科神経科長 子どもと家族・こころの診療部長
秦 利之		医師	周産期科女性診療科長 女性外来診療部長
堀井 泰浩		医師	心臓血管外科長 材料部長
鈴木 康之		医師	消化器外科長 医師キャリア支援センター長

氏名	委員長	職種	役職
横見瀬 裕保		医師	呼吸器外科長
紺谷 桂一		医師	乳腺内分泌外科長 外来化学療法室長
下野 隆一		医師	小児外科長
山本 哲司		医師	整形外科長
杉元 幹史		医師	泌尿器・副腎・腎移植外科長
田宮 隆		医師	脳神経外科長 高次脳機能障害外来診療部長 脳卒中診療部長
廣岡 一行		医師	眼科長
西山 佳宏		医師	放射線診断科長 放射線部長
柴田 徹		医師	放射線治療科長
白神 豪太郎		医師	麻酔・ICUクリニック科長 集中治療部長 ME機器管理センター長
永竿 智久		医師	形成外科・美容外科長
羽場 礼次		医師	病理診断科長
加地 良雄		医師	リハビリテーション科長
三宅 実		医師	歯・顎・口腔外科長
臼杵 尚志		医師	手術部長
芳地 一		医師	薬剤部長
黒田 泰弘		医師	救命救急センター長
窪田 良次		医師	HIV・AIDS対策室長
松原 修司		医師	卒後臨床研修センター長 地域医療教育支援センター長
白川 博章		事務	事務部長

再掲

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	①・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 公益財団法人日本医療機能評価機構 評価日：2014年 2月19日～2014年 2月20日 認定期間：2014年 5月 2日～2019年 5月 1日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	①・無
・情報発信の方法、内容等の概要 ホームページや、本院の高度な医療を紹介した書籍の出版により、本院の診療機能を広く発信している。 医療セミナー「イキイキさぬき健康塾」を定期的で開催し、その内容をケーブルテレビで放映するなど、本院が提供している最新医療の情報を地域に発信している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	①・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 救命救急センターと各診療科が連携し、多発外傷、脳卒中、急性冠症候群、心肺停止、重症熱傷等、緊急性の高い重症救急疾患に対する高度な専門的医療を総合的に実施している。 手術、放射線、化学療法及び緩和医療の各専門医等からなるがんセンターボードを設け、がん患者の症状、状態に応じた最適な治療方針を作成している。	